

L^AT_EX マクロライブラリ

dennou.sty

地球流体電脳倶楽部

*Id : Dennou – drv.doc, v1.32001/04/0300 : 20 :
56mymExp*

目次

1	Dennou6.sty	1
1.1	概要	1
1.2	構成	1
1.3	使用法	1
1.4	Dennou6.sty コード	2
2	D6style.sty	3
2.1	概要	3
2.2	Dheadings ページスタイル	4
2.3	Dmyheadings ページスタイル	4
2.4	Dtop ページスタイル	5
2.5	Dtitle	5
2.6	Dauthor	5
2.7	Ddate	6
2.8	Dpath, Dfile, Dfinp	6

2.9	Dinclude, Dinput	6
2.10	Dchapter	7
2.11	Dchapterhead	8
2.12	D6style.sty コード	8
3	D6misc.sty	11
3.1	概要	11
3.2	マクロの説明	11
3.2.1	Dreference 環境	11
3.2.2	Dnitemize 環境	12
3.2.3	Dlist 環境	12
3.2.4	Dparskip, Dnoparskip	12
3.2.5	Dparindent, Dnoparindent	13
3.2.6	Dtoday	13
3.2.7	Dentry	14
3.2.8	Dsidenote	14
3.2.9	Deqlab, Deqref <i>etc.</i>	14
3.3	D6misc.sty コード	15
4	D6version.sty	17
4.1	概要	17
4.2	マクロの説明	17
4.2.1	Dver	17
4.2.2	Dversion	17
4.2.3	Dmodify	17
4.2.4	Dmoddate, DmoddateJ	18
4.3	D6version.sty コード	18
5	D6math.sty	19
5.1	概要	19
5.2	マクロの説明	19
5.2.1	DD, DP	19
5.2.2	Dvect, Dlapla, Ddiv <i>etc.</i>	20
5.2.3	Dinv, Dd, Ddint, Dtint, Dsqrt	20
5.2.4	Ddsty	21
5.3	D6math.sty コード	21
5.3.1	DD	21
5.3.2	DP	22
5.3.3	Dvect	22
5.3.4	Dlapla	23
5.3.5	Dgrad, Ddiv, Drot	23
5.3.6	Ddint, Dtint	23
5.3.7	Dinv, Dd, Dsqrt	23

6	D2float.sty	24
6.1	概要	24
6.2	変更しているカウンター一覧	24
6.3	コード	25
7	D6prog.sty	25
7.1	概要	25
7.2	マクロの説明	26
7.2.1	Dproginput, Dproginput*	26
7.2.2	Dprogram, Dprogram* 環境	26
7.2.3	Dproglinoff, Dproglinon, Dproglinestart	26
7.2.4	Dproginput, Dprogram のパラメータ	27
7.3	D6prog.sty コード	27
8	D6select.sty	29
8.1	概要	29
8.2	マクロの説明	29
8.2.1	Dnewselect	29
8.3	D6select.sty コード	30
9	D6graphicx.sty	30
9.1	概要	30
9.1.1	D6graphicx	30
9.2	マクロの説明	31
9.2.1	Depssetkeys	31
9.2.2	Depsfdrafttrue	31
9.2.3	Depsf	31
9.2.4	Depsfpic 環境	32
9.3	Depsx, Depsy, Depsxhalf, Depsyhalf	34
9.4	D6graphicx.sty コード	34
10	Dcomment.sty	36
10.1	概要	36
10.2	Dcomment 環境	36

1 Dennou6.sty

1.1 概要

Dennou6 L^AT_EX スタイルは、L^AT_EX を用いた、マニュアル、論文等の作成に便利な、マクロ定義スタイルファイル集である¹ 電脳ライブラリのマニュアルもこのマクロを用いて書かれている。

1.2 構成

Dennou6 L^AT_EX は、以下に挙げるマクロ群を提供する。

D6style.sty	ページスタイル等の指定
D6misc.sty	ラベル参照, いくつかの便利な環境
D6math.sty	数式表現マクロ
D6float.sty	図表環境パラメータの再定義
D6prog.sty	プログラムリストの挿入
D6select.sty	部分選択してフォーマットする
D6graphicx.sty	PS ファイルを取り込むための環境を提供
D6fulpage.sty	ヘッダフッタをなくしてページ全体を本文に使う
D6comment.sty	ファイルの一部をコメントとして扱う
Dennou6.sty	また、以上のうちで、D6style.sty から D6epsf.sty までをまとめたものとして、Dennou6.sty を用いることができる。Dennou6.sty では、さらに \Dnoparindent が実行される (D6misc.sty を参照) また、\Dnewselect{J} が実行され、jarticle 等の指定がある場合には \DonJ が ³ 、article 等場合には \DoffJ が実行される (D6select.sty を参照)。

1.3 使用法

Dennou6.ins を L^AT_EX で処理すると doc ファイルからスタイルファイル (*.sty) が生成される。これらスタイルファイル群を L^AT_EX の標準スタイルファイルを置くディレクトリまたは環境変数 TEXINPUTS の示すディレクトリに入れる²。

D6graphicx.sty は L^AT_EX の標準拡張パッケージである graphicx パッケージを利用している。このパッケージが無い場合 CTAN (The Comprehensive TeX Archive Network)³ :macros/latex/packages/graphics 等から入手すること⁴。

使用に際しては、

```
\documentclass[a4paper]{jreport}
\usepackage{Dennou6}
```

¹なお、開発に使用した T_EX のバージョンは 3.14159, pL^AT_EX2e は 1999/08/09 版である。

²Makefile 中の TEXMF_DIR で指定し make install すればよい

³日本国内では ftp.lab.kdd.co.jp, ftp.jaist.ac.jp, ftp.riken.go.jp, ftp.u-aizu.ac.jp

⁴graphicx パッケージは graphics パッケージの一部である。

あるいは

```
\documentclass[a4paper]{jreport}
\usepackage{D6math,D6graphicx}
\Depconfig
```

のように、用いるスタイルファイル名(.styを除いたもの)を\usepackage{}を用いて取り込めばよい。graphicx パッケージを呼び出す際に指定するデフォルトのデバイスドライバは dvips である。他のデバイスドライバを使用したい場合は\usepackage[dvipdf]{Dennou6} あるいは \usepackage[dvipdf]{D6graphicx} とオプション指定すれば良い。

1.4 Dennou6.sty コード

Dennou6.sty 本節では Dennou6.sty のコードを解説する。先ず、1.2 節に挙げた D6style.sty から D6epsf.sty までの各スタイルファイルを取り込む。

```
1 \NeedsTeXFormat{LaTeX2e}
2 \ProvidesPackage{Dennou6}[2001/04/03 地球流体電脳倶楽部 LaTeX2e 用マクロ集 var.6]
3
4 \usepackage{D6style}
5 \usepackage{D6misc}
6 \usepackage{D6version}
7 \usepackage{D6math}
8 \usepackage{D6float}
9 \usepackage{D6prog}
10 \usepackage{D6select}
11
12 \DeclareOption*{\PassOptionsToPackage{\CurrentOption}{D6graphicx}}
13 \ProcessOptions\relax
14 \usepackage{D6graphicx}
```

以下は必要に応じ、コメントアウトすべき行。

```
15 %\input{Depspic.sty} % not implemented in standard
16 %\input{Dwrite.sty}
17 %\input{Dfigs.sty}
```

ページスタイルを DAheadings とする。

```
18 \pagestyle{DAheadings}
```

段落開始時のインデントは無しとする。

```
19 \Dnoperindent
```

日本語/英語選択切替え用コマンドを定義。

```
20 \Dnewsselect{J}
```

Depconfig \Depconfig を宣言し、デフォルトで PostScript ファイルを張り込めるようにする。

```
21
22 %\Depconfig[dvips]
23
```

\西暦 なるコントロール・シーケンスが定義されていない場合\DoffJ を実行し、定義されている場合 \DonJ と \西暦 を実行し、タイトル出力時の日付を「YYYY 年 MM 月 DD 日」にする

```
24 \@ifundefined{西暦}{\DoffJ}{\DonJ}
```

2 D6style.sty

2.1 概要

Dheadings 電腦標準スタイル. 章のタイトル等がヘッダーに入る.

Dmyheadings ヘッダーの情報をマニュアルで指定する形式.

DAheadings **Dheadings** と同様だが, 章のはじめのページにもヘッダー・フッターを入れる.

Damyheadings **Dheadings** と同様だが, 章のはじめのページにもヘッダー・フッターを入れる.

Dtop ページ番号をヘッダーに入れたシンプルな書式.

電腦標準ページスタイルの形式は,

1. 片面印刷処理の場合, もしくは両面印刷処理の場合の右ページ⁵

タイトル	右サブタイトル	ページ

内容		

パス名	ファイル名 (取り込みファイル名)	日付 (著者)

2. 両面印刷処理の場合の左ページ

ページ	左サブタイトル	タイトル

内容		

日付 (著者)	パス名	ファイル名 (取り込みファイル名)

これらのヘッダー, フッターに入れる情報は, `\Dtitle`, `\Dauthor`, `\Ddate`, `\Dpath`, `\Dfile`, `\Dfinc` で指定する.

さらに, `Dmyheadings`, `Damyheadings` では, `\markright`, `\markboth` コマンドが有効となる. また, `Dheadings`, `DAheadings` では, 章, 節の名前がヘッダーのサブタイトルに設定される.

`\Dinclude`, `\Dinput` を用いると, それぞれ, `\include`, `\input` によるファイルの取り込みがなされ, 各々フッターのファイル名, 取り込みファイル名が設定される.

⁵スタイルオプションとして `twopage` を指定した場合は両面印刷処理となる. また, `jbook` スタイルを選択した場合はデフォルトで両面印刷処理である.

2.2 Dheadings ページスタイル

1. 機能

電脳標準ページスタイルを指定する.

2. 使用方法

`\pagestyle{Dheadings}`

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) 左右のサブタイトルは用いるスタイルにしたがって次の様に設定される.

	(j)book, (j)report	(j)article
片面の右サブタイトル	章見出し	セクション見出し
両面の左サブタイトル	章見出し	セクション見出し
両面の右サブタイトル	セクション見出し	サブセクション見出し

- (b) 章のタイトルなどのページにもヘッダーを出すには, `\pagestyle{DAheadings}` を用いる.

2.3 Dmyheadings ページスタイル

1. 機能

電脳標準ページスタイルを指定する. サブタイトルはマニュアルで設定する.

2. 使用方法

`\pagestyle{Dmyheadings}`

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) 左右のサブタイトルは, `\markboth`, `\markright` によって指定できる.

```
\markboth{左サブタイトル}{右サブタイトル}
\markright{右サブタイトル}
```

これらの引数は動く引数であるので注意が必要である.

- (b) 章のタイトルなどのページにもヘッダーを出すには `\pagestyle{DAmyheadings}` を用いる.

2.4 Dtop ページスタイル

1. 機能

ページ番号を上につける簡単なページスタイルを指定する.

2. 使用方法

```
\pagestyle{Dtop}
```

3. 引数

なし.

2.5 Dtitle

1. 機能

ヘッダに表示するタイトルを指定する. あわせて, `\maketitle` で書かれるタイトルも指定する.

2. 使用方法

```
\Dtitle{title}
\Dtitle[header-title]{title}
```

3. 引数

header-title ヘッダに表示するタイトル. 省略された場合, *title* が使われる.
title `\maketitle` で使われるタイトル.

2.6 Dauthor

1. 機能

フッタに表示する著者名を指定する. あわせて, `\maketitle` で書かれる著者名も指定する.

2. 使用方法

```
\Dauthor{author}
\Dauthor[header-author]{author}
```

3. 引数

header-author フッタに表示する著者名. 省略された場合, *author* が使われる.
author `\maketitle` で使われる著者名.

4. 備考

- (a) フッタに表示するべき著者名が空の場合 (初期設定) にはその周りの括弧は書かれない.

2.7 Ddate

1. 機能

フッタに表示する日付を指定する. あわせて, `\maketitle` で書かれる日付も指定する.

2. 使用方法

```
\Ddate{date}
\Ddate[header-date]{date}
```

3. 引数

header-date フッタに表示する日付. 省略された場合, *date* が使われる.
date `\maketitle` で使われる日付.

2.8 Dpath, Dfile, Dfinp

1. 機能

フッタに表示するパス名, ファイル名, 取り込みファイル名を指定する.

2. 使用方法

```
\Dpath{path-neme}
\Dfile{file-neme}
\Dfinp{input-file-neme}
```

3. 引数

path-name フッターに表示するパス名
file-name フッターに表示するファイル名
input-file-name フッターに表示する取り込みファイル名

4. 備考

- (a) ファイル名は `\Dinclude`, 取り込みファイル名は `\Dinput` によってもセットされる.
- (b) 取り込みファイル名が空の場合 (初期設定) にはその周りの括弧は書かれない.

2.9 Dinclude, Dinput

1. 機能

各々, フッタに表示するファイル名, 取り込みファイル名を設定し, `\include`, `\input` によるファイルの取り込みを行う.

2. 使用方法

```
\Dinclude{file-name}
\Dinput{input-file-name}
```

3. 引数

file-name `\include` で取り込むファイル名
input-file-name `\input` で取り込む取り込みファイル名

4. 備考

- (a) `\Dinclude(\include)` では、改ページが行われる。また、通常の `\include` と同様、`\includeonly` による部分コンパイルが可能である。

2.10 Dchapter

1. 機能

章の見出し、番号等を記憶する。

2. 使用方法

```
\Dchapter{heading}
\Dchapter[toc-entry]{heading}
```

3. 引数

heading 章の見出しに使用される文字列
toc-entry 目次の項目、ページヘッダーの柱として使用する文字列。省略時は *heading* 引数で代用する。

4. 備考

- (a) 章番号の無い章を作成するには、`\Dchapter*` コマンドを用いる。`\chapter*` と違って、柱の変更と目次の項目作成が行われる。
(b) 章の見出しの出力は次の `\Dchapterhead` コマンドによって行われる。
(c) (j)article スタイルでは無視される。
(d) `\Dchapter`, `\Dchapterhead` は、主として分割したファイルを `\Dinclude` によって読み込む場合の便宜のために用いられる。

ある章 (あるいはその一部) を構成するファイルを取り込む時、主ファイルを、

```
\Dchapter{はじめに}
\Dinclude{intro}
\Dinclude{intro2}
\Dchapter{おつぎに}
\Dinclude{future}
```

のようにして、取り込まれるファイル (この場合 `intro.tex`) を

```
\Dchapterhead
```

ではじめておくと、通常のように処理できる。こうしておくと、章の構成が主ファイルから明瞭となり、しかも `\includeonly` 機能を用いて `intro.tex` をコンパイルしない設定にした場合でも不都合が起こらない。

2.11 Dchapterhead

1. 機能

章の見出しを出力する.

2. 使用方法

`\Dchapterhead`

3. 引数

なし.

4. 備考

(a) あらかじめ, `\Dchapter` コマンドで章の見出し名が設定されている必要がある.

(b) `jarticle` スタイルでは無視される.

2.12 D6style.sty コード

```

25 \newdimen\Dheadrulewidth
26 \newdimen\Dfootrulewidth
27 \newdimen\Dheadwidth
28 %
29 \newif\ifDfoot \Dfoottrue
30 \def\Dnofoot{\Dfootfalse}
31 \def\Dfoot{\Dfoottrue}
32 %
33 \def\Dfhead#1#2#3#4#5{
34 \hbox{#1}\hbox to\Dheadwidth{\vbox{
35 \hbox{\rlap{\makebox[\Dheadwidth][l]{\hbox{#2}\strut}}\hfill
36 \makebox[\Dheadwidth]{\hbox{#3}\strut}\hfill
37 \llap{\makebox[\Dheadwidth][r]{\hbox{#4}\strut}}\Dheadrule}}\hbox{#5}}%
38 %
39 \def\Dtfoot#1#2#3#4#5{\ifDfoot
40 \hbox{#1}\hbox to\Dheadwidth{\vbox{\Dfootrule
41 \hbox{\rlap{\makebox[\Dheadwidth][l]{\hbox{#2}\strut}}\hfill
42 \makebox[\Dheadwidth]{\hbox{#3}\strut}\hfill
43 \llap{\makebox[\Dheadwidth][r]{\hbox{#4}\strut}}}}\hbox{#5}
44 \fi}
45 %
46 %
47 \def\Dheadrule{\hrule\@height\Dheadrulewidth\@width\Dheadwidth
48 \vskip-\Dheadrulewidth}
49 %
50 %
51 \def\Dfootrule{\vskip-\Dfootrulewidth
52 \hrule\@width\Dheadwidth\@height\Dfootrulewidth}
53 %
54 \def\ps@Headings{\ps@Dhead \let\@mkboth\markboth}
55 \def\ps@AHeadings{\ps@Dhead \let\ps@jpl@in\ps@Dhead
56 \let\@mkboth\markboth}
57 %
58 \def\ps@Dhead{\ps@Dmyhead %
59 \@ifundefined{chapter}%
60 {\def\sectionmark##1{%
61 \markboth{\ifnum \c@secnumdepth >\@ne

```

```

62         \thesection\hskip 1em \fi##1}
63         {\ifnum \c@secnumdepth >\@ne
64         \thesection\hskip 1em \fi##1}}
65 \let\firstmark\botmark}
66 {\if@twoside
67   \def\chaptermark##1{%
68     {\markboth{\ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
69     \@chapapp\thechapter{} \hskip 1em \fi##1}{}}}
70   \def\sectionmark##1{%
71     \markright{\ifnum \c@secnumdepth >\@ne
72     \thesection\hskip 1em \fi##1}}
73   \else
74   \def\chaptermark##1{%
75     \markright{\ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
76     \@chapapp\thechapter{} \hskip 1em \fi##1}{}}
77   \fi
78   \let\firstmark\botmark}}
79 %
80 \def\ps@Dmyheadings{\ps@Dmyhead \let\mkboth@gobbletwo}
81 \def\ps@DAmyheadings{\ps@Dmyhead \let\ps@jpl@in\ps@Dmyhead
82                       \let\mkboth@gobbletwo}
83 \def\ps@Dmyhead{%
84   \def\@oddhead{\@Dfhead{\relax}{\bf\D@title}{}}
85               {\bf\rightmark\hskip 2em \hfill\thepage}{\hss}}
86   \def\@oddfoot{\@Dffoot{\relax}{\footnotesize\D@path\D@file%
87   \ifx\D@finp\@empty\else (\D@finp)\fi}{}}
88               {\footnotesize\D@date
89   \ifx\D@author\@empty\else (\D@author)\fi}{\hss}}
90   \def\@evenhead{\@Dfhead{\hss}{\bf\thepage \hskip 2em \D@title}{}}
91               {\bf\leftmark}{\relax}}
92   \def\@evenfoot{\@Dffoot{\hss}{\footnotesize\D@date
93   \ifx\D@author\@empty\else (\D@author)\fi}{}}
94               {\footnotesize\D@path\D@file%
95   \ifx\D@finp\@empty\else (\D@finp)\fi}{\relax}}
96   \def\sectionmark##1{}
97   \def\chaptermark##1{}
98 %
99 %   \pagestyle{Dtop}
100 %
101 \def\ps@Dtop{\let\mkboth@gobbletwo%
102   \def\@oddhead{\rm\hfil--\ \thepage\ --\hfil}\def\@oddfoot{}}
103   \let\@evenhead\@oddhead\def\@evenfoot{}}
104 %
105 %   replacement section defs of jarticle
106 %
107 \def\section{\@startsection {section}{1}{\z@
108   {3.5ex plus 1ex minus .2ex}{2.3ex plus .2ex}{\Large\bf}}
109 \def\subsection{\@startsection{subsection}{2}{\z@
110   {3.25ex plus 1ex minus .2ex}{1.5ex plus .2ex}{\large\bf}}
111 \def\subsubsection{\@startsection{subsubsection}{3}{\z@
112   {3.25ex plus 1ex minus .2ex}{1.5ex plus .2ex}{\normalsize\bf}}
113 %
114 \def\DchapterS#1{\chapter*{#1}\mkboth{#1}{#1}%
115   \addcontentsline{toc}{chapter}{#1}}
116 %
117 \newif\ifD@chapnum
118 %
119 \def\Dchapter{%
120   \clearpage \thispagestyle{plain} \global\@topnum\z@

```

```

121 \@afterindenttrue
122 \@ifstar{\@dblarg{\D@schapter}}{\@dblarg{\D@hchapter}}
123 %
124 \def\D@hchapter[#1]#2{%
125 \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
126 \refstepcounter{chapter}
127 \typeout{\@chapapp\thechapter{}}
128 \fi
129 \D@chapnumtrue\chaptermark{#1}
130 \def\D@chapterltitle{#1}\def\D@chaptertitle{#2}}
131 %
132 \def\D@schapter[#1]#2{%
133 \D@chapnumfalse\mkboth{#1}{#1}
134 \def\D@chapterltitle{#1}\def\D@chaptertitle{#2}}
135 %
136 \def\D@chaptertitle{}
137 \def\D@chapterltitle{}
138 %
139 \def\Dchapterhead{
140 \@ifundefined{chapter}
141 {\typeout{Sorry, you cannot use 'Dchapterhead in article style'}}
142 {\ifD@chapnum\D@hchapterhead\else\D@schapterhead\fi}}
143 %
144 \def\D@hchapterhead{%
145 \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
146 \addcontentsline{toc}{chapter}
147   {\protect\numberline{\thechapter}\D@chapterltitle}
148 \else \addcontentsline{toc}{chapter}{\D@chapterltitle} \fi
149 \addtocontents{lof}{\protect\addvspace{10pt}}
150 \addtocontents{lot}{\protect\addvspace{10pt}}
151 \if@twocolumn
152 \@topnewpage[\@makechapterhead{\D@chaptertitle}]
153 %\else \@makechapterhead{\D@chaptertitle}
154 \else \D@makechapterhead{\D@chaptertitle}
155 \@afterheading
156 \fi}
157 %
158 \def\D@schapterhead{%
159 \addcontentsline{toc}{chapter}{\D@chapterltitle}
160 \if@twocolumn \@topnewpage[\@makeschapterhead{\D@chaptertitle}]
161 \else \@makeschapterhead{\D@chaptertitle}
162 \@afterheading\fi}
163 %
164 %
165 \newcommand{\D@chapapp}{\prechaptername}
166 \newcommand{\D@chappos}{\postchaptername}
167 %
168 \def\D@makechapterhead#1{\hbox{}}%
169 \vskip2\Cvs
170 {\parindent\z@
171 \raggedright
172 \reset@font\huge\bfseries
173 \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
174 \setlength\@tempdima{\linewidth}%
175 \setbox\z@\hbox{\D@chapapp\thechapter\D@chappos\hskip1zw}%
176 \addtolength\@tempdima{-\wd\z@}%
177 \unhbox\z@\nobreak
178 \vtop{\hsize\@tempdima#1}%
179 \fi}\vskip3\Cvs}

```

```

180 %
181 %   include file \Dinclude{file-name}, \Dinput{file-name}
182 %
183 \def\Dinclude#1{\gdef\D@file{#1.tex} \gdef\D@finp{} \include{#1}}
184 \def\Dinput#1{\gdef\D@finp{#1.tex} \input{#1}}
185 %
186 %   titles
187 %
188 \def\Dtitlesty{\Huge\bf}
189 \def\Dauthorsty{\Large\bf}
190 \def\Ddatesty{\LARGE\bf}
191 %
192 \def\Dtitle{\@dblarg{\@Dtitle}}
193 \def\Dauthor{\@dblarg{\@Dauthor}}
194 \def\Ddate{\@dblarg{\@Ddate}}
195 \def\@Dtitle[#1]#2{\gdef\D@title{#1}\gdef\@title{\Dtitlesty #2}}
196 \def\@Dauthor[#1]#2{\gdef\D@author{#1}\gdef\@author{\Dauthorsty #2}}
197 \def\@Ddate[#1]#2{\gdef\D@date{#1}\gdef\@date{\Ddatesty #2}}
198 \def\Dpath#1{\gdef\D@path{#1}}
199 \def\Dfile#1{\gdef\D@file{#1}}
200 \def\Dfinp#1{\gdef\D@finp{#1}}
201 \def\D@title{}
202 \def\D@author{}
203 \@ifundefined{Dtoday}{\def\Dtoday{\today}}{}
204 \def\D@date{Dtoday}
205 \def\D@path{}
206 \def\D@file{\jobname .tex}
207 \def\D@finp{}
208 %
209 %   style length
210 %
211 \setlength{\Dheadrulewidth}{0.4pt}
212 \setlength{\Dfootrulewidth}{0.4pt}
213 \setlength{\Dheadwidth}{\textwidth}
214 \addtolength{\Dheadwidth}{-3pt}
215 %
216 \addtolength{\headheight}{1ex}
217 \addtolength{\topmargin}{-1ex}

```

3 D6misc.sty

3.1 概要

Dmisc.sty は、ラベルの参照、日付等のマクロ、いくつかの便利な環境を提供する。

3.2 マクロの説明

3.2.1 Dreference 環境

1. 機能

参考文献リストを出力する環境

2. 使用方法

```

\begin{Dreference}
\end{Dreference}

```

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) 基本的には `description` 環境と同様である. タイトルを英語にするには, `Dselect.sty` を使用し, `\Dnewselect{J}`, `\DoffJ`, とする必要がある. (`dennou.sty` では, `jarticle` 等を用いたときには日本語に, `article` 等を用いたときには英語に自動的に設定される.)

3.2.2 Dnitemize 環境

1. 機能

行間の狭い `itemize` 環境

2. 使用方法

```
\begin{Dnitemize} ... \end{Dnitemize}
```

3. 引数

なし.

3.2.3 Dlist 環境

1. 機能

桁の揃った `description` 環境

2. 使用方法

```
\begin{Dlist}[template] ... \end{Dreference}
```

3. 引数

template ラベルの幅を決める文字列

4. 備考

- (a) *template* には, 環境の中のラベルのうち最長の文字列を指定する.
(b) ラベルの `box` の幅は, *template* の文字列の幅に `\Dlistlabalsep` で指定する長さを足したものとなる.

3.2.4 Dparskip, Dnoparskip

1. 機能

段落間に空白を入れる機能をオン・オフする

2. 使用方法

`\Dparskip`
`\Dnoparskip`

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) 段落間の空白は `3ex` である.

3.2.5 Dparindent, Dnoparindent

1. 機能

段落開始時のインデントをオン・オフする

2. 使用方法

`\Dparskip`
`\Dnoparskip`

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) インデント量はデフォルト値が使用される.

3.2.6 Dtoday

1. 機能

LaTeX のフォーマット時の日付を `yy/mm/dd` の形式で出力する

2. 使用方法

`\Dtoday`

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) fragile であるので, 動く引数で使う場合には `\protect` が必要.

3.2.7 Dentry

1. 機能

ラベルをつけ, 同じ名前の索引エントリを作る.

2. 使用方法

`\Dentry{entry-name}`

3. 引数

entry-name ラベル, 索引エントリ名となる文字列

3.2.8 Dsidenote

1. 機能

右マージン (左ページの場合は左マージン) に文字列を出力する.

2. 使用方法

`\Dsidenote{string}`

3. 引数

string 出力する文字列

4. 備考

(a) 文字のサイズは `scriptsize` がデフォルトである.

3.2.9 Deqlab, Deqref etc.

1. 機能

式, 図, 表, 節, 章にラベルをつける. また, それらに見合った参照文字列を出力する.

2. 使用方法

`\Deqlab{label}` etc.

`\Deqref{label}` etc.

3. 引数

label ラベル識別子の文字列

4. 備考

(a) 次の様なものがある. ラベル識別子には各々に対応した接頭子が付与される.

英語選択時とは, `Dselect.sty` を使用し, `\Dnewselect{J}`, `\DoffJ`, としたときである. (`dennou.sty` では, `jarticle` 等を用いたときには日本語に, `article` 等を用いたときには英語に自動的に設定される.)

3.3 D6misc.sty コード

D6misc.sty 本節では D6misc.sty に含まれるマクロのコードを解説する。

```

\Dparindent dennou スタイルで使用する段落先頭のインデント (字下げ) 値を定義する. 新しいグルー
\Dnoparindent \D@parindent を宣言.
218 \newlength{\D@parindent}
    使用するクラスにおける\parindent のデフォルト値を保持するために\D@parindent の値を
    \parindent の値にせよ.
219 \setlength{\D@parindent}{\parindent}
    \Dparindent は \parindent の値を \D@parindent の値 (つまり使用クラスでのデフォルト値)
    に変更するよう定義せよ.
220 \def\Dparindent{\setlength{\parindent}{\D@parindent}}
    \Dnoparindent は \parindent の値を 0pt に変更するよう定義せよ.
221 \def\Dnoparindent{\setlength{\parindent}{0pt}}

\Dparskip 段落間の縦方向スペース (\parskip) を 3ex とせよ.
222 \def\Dparskip{\setlength{\parskip}{3ex}}

\Dnoparskip 段落間の縦方向スペース (\parskip) を 0ex とせよ.
223 \def\Dnoparskip{\setlength{\parskip}{0ex}}

    未解説

\Dsethead
224 \def\Dsethead{\let\firstmark\botmark}

\Dsethead
225 \@ifundefined{DselJ}{\gdef\DselJ#1#2{#1}}{}
226 \def\@chapapp#1#2{\DselJ{第#1 章}{Chapter#1#2}}
227 %\def\@chapapp#1#2{\DselJ{第#2 章}{Chapter#1#2}}
228 \def\fnm@figure{\DselJ{図}{Figure} \thefigure}
229 \def\fnm@table{\DselJ{表}{Table} \thetable} % modified by S.Takehiro

\Dreference
230 \def\D@refapp{\DselJ{文献}{References}}
231 \def\Dreference{\@ifundefined{chapter}%
232     {\section*{\D@refapp@mkbth{\D@refapp}{\D@refapp}}}
233     {\chapter*{\D@refapp@mkbth{\D@refapp}{\D@refapp}}}
234     \list{}{\labelwidth\z@ \itemindent-\leftmargin
235     \let\makelabel\descriptionlabel}}
236 \let\endDreference\endlist

\Dtoday
237 \newcount\D@year
238 \def\Dtoday{\D@year=\year\advance\D@year -0 %
239     \ \number\D@year /\nobreak%
240     \ifnum\month<10 0\fi%
241     \number\month /\nobreak%
242     \ifnum\day<10 0\fi%
243     \number\day}

```

```

244 \def\Dentry#1{\label{#1}\index{#1}}
245 %
246 %\@ifundefined{Dlabel}{\let\Dlabel\label}{}
247 \@ifundefined{Dlabel}{\def\Dlabel#1{\label{#1}}}{ }
248 \def\Deqlab#1{\Dlabel{eq:#1}}
249 \def\Dfiglab#1{\Dlabel{fig:#1}}
250 \def\DTablab#1{\Dlabel{tab:#1}}
251 \def\Dsecclab#1{\Dlabel{sec:#1}}
252 \def\Dchaplab#1{\Dlabel{chap:#1}}
253 %
254 \def\Deqref#1{(\ref{eq:#1})}
255 \def\Dfigref#1{\DselJ{図}{Fig.}\ref{fig:#1}}
256 \def\DFigref#1{\DselJ{図}{Figure }\ref{fig:#1}}
257 \def\DTabref#1{\DselJ{表}{Table }\ref{tab:#1}}
258 \def\Dsecref#1{\DselJ{第\ref{sec:#1}節}{Section \ref{sec:#1}}
259 \def\Dchapref#1{\DselJ{第\ref{chap:#1}章}{Chapter \ref{chap:#1}}
260 %\def\Dchapref#1{\DselJ{第\ref{chap:#1}章}{Chapter \ref{chap:#1}}
261 %
262 \def\Dappendix{\par
263 \setcounter{chapter}{0}
264 \setcounter{section}{0}
265 \def\@chapapp{\DselJ{補遺}{Appendix}}
266 \def\thechapter{\Alph{chapter}} % modified by S.Takehiro
267 %
268 \def\Dsmallquote{\begingroup\small\quote}
269 \def\endDsmallquote{\endquote\endgroup}
270 %
271 \def\Dnitemize{\vskip -1ex
272 \list{\$}\bullet$}{\itemsep=0.0pt \parsep=0.0pt}}
273 \def\endDnitemize{\endlist\vskip -1ex}
274 %
275 \def\Dsidenote#1{\marginpar{\scriptsize #1}}
276 %
277 \def\Dlistlabel#1{\mbox{\bf #1}\hfil}
278 \def\Dlistlabelsep{1em}
279 \def\Dlisttemplate{XXXXXXXX}
280 \def\Dlist{\@ifnextchar[{\D@list} %]
281 \D@list[\Dlisttemplate]}
282 \def\D@list[#1]{%
283 \list{}{\let\makelabel\Dlistlabel
284 \settowidth{\labelwidth}{#1}
285 \leftmargin=\labelwidth
286 \addtolength{\leftmargin}{\Dlistlabelsep}}}
287 \let\endDlist\endlist
288 %
289 % re-definition of \listoffigures and \listoftables.
290 % appended by S.Takehiro 96.5.17
291 %
292 \def\listoffigures{\section*{\DselJ{図 目 次}{List of Figures}}\markboth
293 {\DselJ{図 目 次}{List of Figures}}
294 {\DselJ{図 目 次}{List of Figures}}\@starttoc{lof}}
295 \let\l@table\l@figure
296 \def\listoftables{\section*{\DselJ{表 目 次}{List of Tables}}\markboth
297 {\DselJ{表 目 次}{List of Tables}}
298 {\DselJ{表 目 次}{List of Tables}}\@starttoc{lot}}
299 \let\l@table\l@figure

```

4 D6version.sty

4.1 概要

D6version.sty Dversion.sty は、 電脳ライブラリマニュアルバージョン管理用に作られたマクロを提供する。

4.2 マクロの説明

4.2.1 Dver

\Dver 1. 機能

バージョン番号を記憶させておき、Dversion で参照できるようにする。

2. 使用方法

\Dver{4.1.1}

3. 引数

バージョン番号.

4. 備考

(a) HISTORY.tex などの別ファイルに書き込んでおき、バージョンの統合管理をするのに用いる。

4.2.2 Dversion

\Dversion 1. 機能

Dver で記憶したバージョン番号を参照する。

2. 使用方法

\Dversion

3. 引数

なし.

4. 備考

(a) HISTORY.tex などの別ファイルに Dver で書き込まれているバージョン番号を参照するのに用いる。

4.2.3 Dmodify

\Dmodify 1. 機能

日付を記憶させておき、Dmoddate, DmoddateJ で参照できるようにする。

2. 使用方法

\Dmodify{92}{6}{2}

3. 引数

年月日.

4. 備考

- (a) HISTORY.tex などの別ファイルに書き込んでおき、バージョンの統合管理をするのに用いる.

4.2.4 Dmoddate, DmoddateJ

`\Dmoddate`
`\DmoddateJ`

1. 機能

`Dmodify` で記憶した日付を参照する.

2. 使用方法

`\Dmoddate`
`\DmoddateJ`

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) HISTORY.tex などの別ファイルに `Dmodify` で書き込まれている日付を参照するのに用いる. `\Dmoddate` は 92/06/02 という形式で, `\DmoddateJ` は 1992 年 6 月 2 日という形式で出力する.

4.3 D6version.sty コード

`D6version.sty` 本節では `D6version.sty` に含まれるマクロのコードを解説する.

`\Dver` 引数をバージョン番号として `\Dversion` を定義せよ.

`\Dversion` `\Dversion` は `\Dver` に与えられた引数を表示せよ.

```
300 \newcommand{\Dver}[1]{
301         \newcommand{\Dversion}{#1}
302     }
```

`\Dmodify` 3つの引数を順に, 「年」, 「月」, 「日」として `\Dmodyear`, `\Dmodmonth`, `\Dmodday` を定義せよ.

`\Dmodyear` `\Dmodify` の第1引数を表示せよ.

`\Dmodmonth` `\Dmodify` の第2引数を表示せよ.

`\Dmodday` `\Dmodify` の第3引数を表示せよ.

```
303 \newcommand{\Dmodify}[3]{
304     \newcommand{\Dmodyear}{#1}
305     \newcommand{\Dmodmonth}{#2}
306     \newcommand{\Dmodday}{#3}
307 }
```

`\Dmoddate` `\Dmodyear`, `\Dmodmonth`, `\Dmodday` の値を用い, 日付を「YYYY/MM/DD」の形式で表示せよ. ただし, `\Dmodmonth` と `\Dmodday` の値が 1 桁の場合, ゼロを付加し表示せよ.

```
308 \def\Dmoddate{\Dmodyear%
309             /\ifnum\Dmodmonth<10 0\fi\Dmodmonth%
310             /\ifnum\Dmodday<10 0\fi\Dmodday}
```

`\DmoddateJ` `\Dmodyear`, `\Dmodmonth`, `\Dmodday` の値を用い, 日付を「YYYY 年 MM 月 DD 日」の形式で表示せよ. ただし, `\Dmodyear` が 1900 未満の場合 19 を付加し表示せよ.

```
311 \def\DmoddateJ{\ifnum\Dmodyear<1900 19\fi\Dmodyear 年\Dmodmonth 月\Dmodday 日}
```

5 D6math.sty

5.1 概要

`D6math.sty` `Dmath.sty` は, 数式を出力するためのいくつかの便利なマクロを提供する.

5.2 マクロの説明

5.2.1 DD,DP

`\DD` 1. 機能

`\DP` 全微分, 偏微分

2. 使用方法

$$\backslash DD\{A\}\{x\} \quad \frac{dA}{dx}$$

$$\backslash DD[2]\{A\}\{x\} \quad \frac{d^2A}{dx^2}$$

$$\backslash DD\{\}\{x\} \quad \frac{d}{dx}$$

$$\backslash DP\{A\}\{x\} \quad \frac{\partial A}{\partial x}$$

$$\backslash DP[2]\{A\}\{x\} \quad \frac{\partial^2 A}{\partial x^2}$$

$$\backslash DP[] [y]\{A\}\{x\} \quad \left(\frac{\partial A}{\partial x}\right)_y$$

$$\backslash DP[2] [y]\{A\}\{x\} \quad \left(\frac{\partial^2 A}{\partial x^2}\right)_y$$

5.2.2 Dvect,Dlapla,Ddiv etc.

`\Dvect` 1. 機能

`\Dlapla` ベクトル表記

`\Dgrad`

`\Ddiv` 2. 使用方法

`\Drot`

	<code>\Dboldvect</code> 指定時	<code>\Darrowvect</code> 指定時
<code>\Dvect{v}</code>	v	\vec{v}

`\Dlapla A` $\nabla^2 A$

`\Dlapla[4] A` $\nabla^4 A$

	<code>\Dnablagrad</code> 指定時	<code>\Dchargrad</code> 指定時
<code>\Dgrad A</code>	∇A	$\text{grad}A$

`\Ddiv \Dvect{v}` $\nabla \cdot v$ $\text{div}v$

`\Drot \Dvect{v}` $\nabla \times v$ $\text{rot}v$

3. 備考

(a) `\Dvect` のスタイルは `\Dboldvect` (デフォルト), `\Darrowvect` コマンドによって切り替えることができる.

(b) `\Dgrad`, `\Ddiv`, `\Drot` のスタイルは `\Dnablagrad`(デフォルト), `\Dchargrad` コマンドによって切り替えることができる.

5.2.3 Dinv, Dd, Ddint, Dtint, Dsqrt

`\Dinv` 1. 機能

`\Dd` 積分などその他の数式表記

`\Ddint`

`\Dtint` 2. 使用方法

`\Dsqrt`

<code>\Dinv{2}</code>	$\frac{1}{2}$
<code>\int A \Dd x</code>	$\int A dx$
<code>\Ddint A \Dd x \Dd y</code>	$\iint A dx dy$
<code>\Dtint A \Dd x \Dd y \Dd z</code>	$\iiint A dx dy dz$
<code>\Dsqr{g}+\Dsqr{h}</code>	$\sqrt{g} + \sqrt{h}$

3. 備考

- (a) `\Dd`, `\Ddint`, `\Dtint` では, スペースの調整が行なわれている.
- (b) `\Dsqr` では, ルートの高さ調整が行なわれている.

5.2.4 Ddsty

`\Ddsty`

1. 機能

`\displaystyle` の略記法

2. 使用方法

`\Ddsty`

5.3 D6math.sty コード

本節では `D6math.sty` に含まれるマクロのコードを解説する.

5.3.1 DD

全微分を表示するマクロの定義は以下の通り

`\DD` もし次に来る文字が 1) [ではじまる場合, 全微分を表記するためのマクロ `\D@D` を呼び出せ. また微小記号とのスペース調整 `\D@space` を \! とせよ. 2) [で無い場合 `\D@D[]` として呼び出せ. また微小記号とのスペース調整 `\D@space` はゼロとせよ.

```
312 \newcommand{\DD}{\@ifnextchar [{\def\D@space{\!}\D@D}{\def\D@space{\!}\D@D[]}}
```

`\D@D` デリミターとして [,] を使い, 3つの引数をとれ. 第2引数を第3引数偏微分したものを表示せよ. ただし第1引数次とする.

```
313 \def\D@D[#1]#2#3{\frac{d^{#1}\D@space #2}{d #3}^{#1}}
```


5.3.2 DP

偏微分を表示するマクロの定義は以下の通り

`\DP` もし次に来る文字が 1) [ではじまる場合, `\D@P` を呼び出せ. また微小記号とのスペース調整 `\D@space` を `\!` とせよ. 2) [で無い場合 `\D@P[]` として呼び出せ. また微小記号とのスペース調整 `\D@space` はゼロとせよ.

```
314 \newcommand{\DP}{\@ifnextchar [{\def\D@space{\!}\D@P}{\def\D@space{\!}\D@P[]}}
```

`\D@P` デリミターとして [,] を使い, 1つの引数をとれ. もし引数の次に来る文字が 1) [ではじまる場合, `\D@Pi` を呼び出せ. この際, 引数を [,] で囲み再度引き渡せ. 2) [で無い場合 引数を [,] で囲み `\D@PD` に引き渡せ.

```
315 \def\D@P[#1]{\@ifnextchar [{\D@Pi[#1]}\D@PD[#1]}
```

`\D@PD` デリミターとして [,] を使い, 3つの引数をとれ. 第 2 引数を第 3 引数偏微分したものを表示せよ. ただし第 1 引数次とする.

```
316 \def\D@PD[#1]#2#3{\frac{\partial^{#1}\D@space #2}{\partial #3}^{#1}}
```

`\D@PD` デリミターとして [,] を使い, 4つの引数をとれ. 第 3 引数を第 4 引数偏微分したものを表示せよ. ただし第 1 引数次で, 第 2 引数を固定したものとする.

```
317 \def\D@Pi[#1][#2]#3#4{\left(
318 \frac{\partial^{#1}\D@space #3}{\partial #4}^{#1}
319 \right)_{#2}}
```

5.3.3 Dvect

`\Dvect` ベクトル表記用のマクロ `\Dvect` は `\Dboldvect` あるいは `\Darrowvect` をによって定義される. `\Dboldvect` を指定すると, ボールド体のベクトル表記 `\Darrowvect` を指定すると, 矢印を用いたベクトル表記となる.

`\Dboldvect` `\Dvect` を `\D@bvect` とせよ.

```
320 \newcommand{\Dboldvect}{\let\Dvect\D@bvect} % 95/12/15 (takepiro)
```

`\D@bvect` 引数をボールド数式フォントで出力せよ.

```
321 \newcommand{\D@bvect}[1]{%
322 \ensuremath{\mathchoice%
323 {\mbox{\boldmath${#1}$}}%
324 {\mbox{\boldmath${#1}$}}%
325 {\mbox{\boldmath$\scriptstyle{#1}$}}%
326 {\mbox{\boldmath$\scriptscriptstyle{#1}$}}%
327 }}
```

`\Darrowvect` `\Dvect` を `\D@avect` とせよ.

```
328 \newcommand{\Darrowvect}{\let\Dvect\D@avect} % 95/12/15 (takepiro)
```

`\D@avect` 引数に矢印のベクトル記号を付け出力せよ.

```
329 \newcommand{\D@avect}[1]{\mbox{$\vec{#1}$}}
```

5.3.4 Dlapla

`\Dlapla` もし次に来る文字が 1) [で始まる場合, `\D@lapla` を呼び出せ. 2) [で無い場合 `\D@lapla[2]` として呼び出せ.

```
330 \newcommand{\Dlapla}{\@ifnextchar [{\D@lapla}{\D@lapla[2]}}
```

`\D@lapla` デリミターとして [,] を使い, 引数を 1 つとれ. `\nabla` 記号の引数乗を表示せよ.

```
331 \def\D@lapla[#1]{\nabla^{#1}}
```

5.3.5 Dgrad, Ddiv, Drot

勾配, 発散, 回転を表示する `Dgrad`, `Ddiv`, `Drot` は `\Dnablagrad` あるいは `\Dchargrad` によって定義される. `\Dnablagrad` はナブラ演算子を用いた表記で定義し, `\Dchargrad` は文字を用いた表記で定義する.

`\Dnablagrad` `Dgrad`, `Ddiv`, `Drot` をそれぞれ `D@engrad`, `D@ndiv`, `D@nrot` とせよ.

`\D@engrad` `D@engrad`, `D@ndiv`, `D@nrot` をナブラ演算子で表現せよ.

```
\D@ndiv 332 \newcommand{\Dnablagrad}{\let\Dgrad\D@engrad \let\Ddiv\D@ndiv \let\Drot\D@nrot}
```

```
\D@nrot 333 \newcommand{\D@engrad}{\mbox{\$ \nabla \$}}
```

```
334 \newcommand{\D@ndiv}{\mbox{\$ \nabla \cdot \$}}
```

```
335 \newcommand{\D@nrot}{\mbox{\$ \nabla \times \$}}
```

`\Dchargrad` `Dgrad`, `Ddiv`, `Drot` をそれぞれ `D@cgrad`, `D@cdiv`, `D@crot` とせよ.

`\D@cgrad` `D@cgrad`, `D@cdiv`, `D@crot` を文字 (grad, div, rot) で表現せよ.

```
\D@ndiv 336 \newcommand{\Dchargrad}{\let\Dgrad\D@cgrad \let\Ddiv\D@cdiv \let\Drot\D@crot}
```

```
\D@nrot 337 \newcommand{\D@cgrad}{\mbox{\$ \mathrm{grad} \$}}
```

```
338 \newcommand{\D@cdiv}{\mbox{\$ \mathrm{div} \$}}
```

```
339 \newcommand{\D@crot}{\mbox{\$ \mathrm{rot} \$}}
```

5.3.6 Ddint, Dtint

重積分, 三重積分の際, 積分記号間のスペースを調整.

`\Dintkern` 数式のスタイルに応じたスペース調整を定義する.

```
340 \newcommand{\Dintkern}{\mathchoice{\!\!\!}{\!\!}{\!}{\!}{\!\!\!}}
```

`\Ddint` 連続した積分記号間に `\Dintkern` を入れることでスペースを調整し, 重積分および三重積分を

`\Dtint` 表示せよ.

```
341 \newcommand{\Ddint}{\int\Dintkern\int}
```

```
342 \newcommand{\Dtint}{\int\Dintkern\int\Dintkern\int}
```

5.3.7 Dinv, Dd, Dsqrt

`\Dinv` 引数分の 1 を表示せよ.

```
343 \newcommand{\Dinv}[1]{\frac{1}{#1}}
```

`\Dd` 小さなスペースの後に `d` を表示せよ.

```
344 \newcommand{\Dd}{\,d}
```

`\Dsqrtd` 引数の平方根を表示せよ。ただし平方根記号は一定の高さと深さを持つ。

```
345 \newcommand{\Dsqrtd}[1]{\sqrt{\mathstrut #1}}
```

`\Ddsty` `\displaystyle` にせよ。

```
346 \newcommand{\Ddsty}{\displaystyle}
```

`\Dboldvect` ベクトル表記のデフォルトを `\Dboldvect`, 微分演算子表記のデフォルトを `\Dnablagrad` と
`\Dnablagrad` せよ。

```
347 \Dboldvect
```

```
348 \Dnablagrad
```

6 D2float.sty

6.1 概要

`\D2float.sty` `D2float.sty` はフロート制御カウンター・パラメータを変更することで文中のフロート⁶をできるだけソースコードで指定した位置に出力できるようフロートパラメータを変更している。ユーザが呼び出して使うコマンドはない。このファイルの中で指定しているパラメータの値は必ずしも最良なものではないことに注意されたい。

6.2 変更しているカウンター一覧

- `topnumber`
- `bottomnumber`
- `totalnumber`
- `dbltopnumber`
- `\topfraction`
- `\bottomfraction`
- `\textfraction`
- `\floatpagefraction`
- `\dbltopfraction`
- `\dblfloatpagefraction`

⁶フロートとは図表類の総称。文章中の適切な位置に”浮かべ”る必要がある要素であるという意味。図表だけのページを”フロートページ”という。

6.3 コード

- topnumber** ページ上端に出力を許可するフロートの限度数を 5 に設定する (デフォルト値 2).
349 `\setcounter{topnumber}{5}`
- bottomnumber** ページ下端に出力を許可するフロートの限度数を 5 に設定する (デフォルト値 1).
350 `\setcounter{bottomnumber}{5}`
- totalnumber** 単一のページに出力を許可するフローとの限度数を 10 に設定する (デフォルト値 3). この値は `topnumber + bottomnumber` でなくてはならない.
351 `\setcounter{totalnumber}{10}`
- dbltopnumber** 二段組スタイルでの二段組幅のフロート用の `topnumber`. 5 に設定する (デフォルト値 2).
352 `\setcounter{dbltopnumber}{5}`
- \topfraction** ページ上端に出力するフロートが占有しても構わないページ上の最大領域を 0.9 (90 %) に設定する (デフォルト値 0.7).
353 `\renewcommand{\topfraction}{.9}`
- \bottomfraction** ページ下端に出力するフロートが占有しても構わないページ上の最大領域を 0.9 (90 %) に設定する (デフォルト値 0.3).
354 `\renewcommand{\bottomfraction}{.9}`
- \textfraction** テキストで占有しなければならない通常のページの最小領域を 0.1 (10 %) に設定する (デフォルト値は 0.2).
355 `\renewcommand{\textfraction}{.1}`
- \floatpagefraction** フロートが占有するフロートページ上の最小領域, つまりフロートページ上の空白の領域を制限. この値を 0.4 (40 %) とする (デフォルト値 0.5).
356 `\renewcommand{\floatpagefraction}{.4}`
- \dbltopfraction** 二段組ページ上の二段組幅のフロート用 .9. 0.9 (90 %) に設定する (デフォルト値 0.7).
357 `\renewcommand{\dbltopfraction}{.9}`
- \dblfloatpagefraction** 二段組幅のフロート用のフロートページの.4. 0.1 (10 %) に設定する (デフォルト値 0.5).
358 `\renewcommand{\dblfloatpagefraction}{.1}`

7 D6prog.sty

7.1 概要

D6prog.sty

Dprog.sty は, プログラム等のリストを出力するための環境とコマンドを定義する. プログラムリストの形式は, `verbatim` 環境に似たものであるが, フォントおよび行間隔が異なり, 行番号がつけられる.

7.2 マクロの説明

7.2.1 Dproginput, Dproginput*

- `\Dproginput` 1. 機能
`\Dproginput*` ファイルの内容をプログラムリスト形式で出力する.
2. 使用方法
- ```
\Dproginput{file}
\Dproginput*{file}
```
3. 引数
- file* 出力するファイル名
4. 備考
- (a) `\Dproglinedoff` を指定, または `\Dproglined` を変更しないかぎり行番号がつけられる.  
 (b) `\Dproginput*` は空白を "□" と出力する.

### 7.2.2 Dprogram, Dprogram\* 環境

- `Dprogram`      1. 機能  
`Dprogram*`      環境内のテキストをプログラムリスト形式で出力する
2. 使用方法
- ```
\begin{Dprogram} ... \end{Dprogram}
\begin{Dprogram*} ... \end{Dprogram*}
```
3. 引数
- なし
4. 備考
- (a) `\Dproglinedoff` を指定, または `\Dproglined` を変更しないかぎり行番号がつけられる.
 (b) `Dprogram*`環境は空白を "□" と出力する.

7.2.3 Dproglinedoff, Dproglined, Dproglinedstart

- `\Dproglinedoff` 1. 機能
`\Dproglined`
`\Dproglinedstart` 行番号出力を制御する. `\Dproglinedoff` でオフ, `\Dproglined` でオン,
`\Dproglinedstart` で開始行番号を設定する
2. 使用方法
- ```
\Dproglinedoff
\Dproglined
\Dproglinedstart{start-num}
```

## 3. 引数

*start-num* 開始行番号 (デフォルトは 1)

## 7.2.4 Dproginput, Dprogram のパラメータ

|                            |                                                                                                                                |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>\Dprogsize</code>    | 以下のコマンドは <code>\Dproginput</code> , <code>Dprogram</code> 環境のパラメータであり, <code>\renewcommand</code> または <code>\def</code> で設定する. |
| <code>\Dprogskip</code>    |                                                                                                                                |
| <code>\Dproglinesep</code> |                                                                                                                                |
| <code>\Dproglinesep</code> | <code>Dprogsize</code> 文字の大きさ (デフォルトは <code>\small</code> )                                                                    |
| <code>\Dproglinesep</code> | <code>\Dprogskip</code> 行間隔 (デフォルトは <code>2ex</code> )                                                                         |
| <code>\Dproglinesep</code> | <code>\Dproglinesep</code> 行番号のフォーマット (デフォルトは <code>\scriptsize\it #1</code> )                                                 |
| <code>\Dproglinesep</code> | <code>\Dproglinesep</code> 行番号の欄幅 (デフォルトは <code>3em</code> )                                                                   |
| <code>\Dproglinesep</code> | <code>\Dproglinesep</code> 行番号欄と本文の間の空白幅 (デフォルトは <code>1em</code> )                                                            |

## 7.3 D6prog.sty コード

`D6prog.sty` 本節では `D6prog.sty` に含まれるマクロのコードを解説する.

まず初めに共通パラメータを定義する.

`\Dprogsize` フォントサイズのデフォルト値を設定. `\small` とせよ.

```
359 \newcommand{\Dprogsize}{\small} % font size
```

`\Dprogskip` 行間隔として使う値のデフォルト値を設定. `2ex` とせよ.

```
360 \newcommand{\Dprogskip}{2ex} % vertical skip
```

`\Dproglinesep` 行番号出力のデフォルト値を設定. 大きさは `\scriptsize`, フォントはイタリック (`\it`) とせよ.

```
361 \newcommand{\Dproglinesep}[1]{\scriptsize\it #1} % line number font
```

`\Dproglinesep` 行番号の欄幅のデフォルト値を設定. `3em` とせよ.

```
362 \newcommand{\Dproglinesep}{3em}
```

`\Dproglinesep` 行番号と本文の間にいれる空白幅のデフォルト値を設定. `1em` とせよ.

```
363 \newcommand{\Dproglinesep}{1em}
```

次に各コマンド, 環境を定義する.

`\Dproginput` アスタリスク `*` の有無を調べよ. もし `*` がある場合, `\D@proginput` を呼び出し, ない場合,

`\Dproginput*` `\D@@proginput` を呼び出せ.

```
364 \newcommand{\Dproginput}{\ifstar{\D@@proginput}{\D@proginput}}
```

`\D@proginput` プログラムリスト形式で出力するための準備マクロ `\D@progset` を呼び出せ. 空白文字記号 `␣` を出力するな. 引数として与えられたファイルを出力せよ.

```
365 \newcommand{\D@proginput}[1]{\begingroup\D@progset\@vobeyspaces\input#1\endgroup}
```

`\D@@proginput` プログラムリスト形式で出力するための準備マクロ `\D@progset` を呼び出せ. 引数として与えられたファイルを出力せよ.

```
366 \newcommand{\D@@proginput}[1]{\begingroup\D@progset\input#1\endgroup}
```

`\Dprogram` プログラムリスト形式で出力するための準備マクロ`\D@progset`を呼び出せ. 空白文字記号 `␣`を出力するな. `@xDprogram`を呼び出し, 環境内の文字を出力せよ.

```
367 \def\Dprogram{\D@progset\@vobeyspaces\@xDprogram}
```

`\Dprogram*` プログラムリスト形式で出力するための準備マクロ`\D@progset`を呼び出せ. `@xDprogram`を呼び出し, 環境内の文字を出力せよ.

```
368 \@namedef{Dprogram*}{\D@progset\@xxDprogram}
```

`\D@progset` 段落を始め, 適当な行間をあけよ. インデントは無し.

```
369 \def\D@progset{
```

```
370 \par\bigskip\noindent\endgraf
```

文字の大きさ `\Dptogsize` とし, 行間隔を `\Dprogskip` とせよ. 行番号の値保持するカウンタ `D@proglineno` に `\D@proglinestart` の値を代入せよ.

```
371 \Dprogskip \baselineskip=\Dprogskip
```

```
372 \setcounter{D@proglineno}{\D@proglinestart}
```

空白は一定の大きさで出力せよ. フォントはタイプライター体を使え. 各行の終わりに `\par` を出力せよ.

```
373 \frenchspacing \ttfamily \obeylines
```

おまじない... 各行にカウンター値を出力せよ.

```
374 \uncatcodespecials
```

```
375 \def\par{\leavevmode\endgraf}
```

```
376 \everypar{\Dproglinewidth\stepcounter{D@proglineno}}
```

```
377 }
```

`\Dproglinewidth` `\D@proglinewidth` を `\Dproglinewidth` と同定義とせよ.

```
378 \def\Dproglinewidth{\let\D@proglinewidth\Dproglinewidth}
```

`\Dproglinewidthoff` `\D@proglinewidth` を引数をとるだけのマクロと定義せよ.

```
379 \def\Dproglinewidthoff{\def\D@proglinewidth##1{}}
```

`\D@proglinestart` `\D@proglinestart` を引数 #1 を与えるものと定義せよ.

```
380 \def\D@proglinestart#1{\def\D@proglinestart{#1}}
```

各行の先頭に配置するボックスを定義. このボックスに行番号を配置するものとする.

`\Dproglinewidth`

```
381 \newcounter{D@proglineno}
```

```
382 \def\Dproglinewidth{%
```

```
383 \makebox[\Dproglinewidth][r]{\D@proglinewidth{\theD@proglineno}}
```

```
384 \hskip\Dproglinewidth}
```

```
385 \Dproglinewidth \D@proglinestart{1}
```

`\@xDprogram`

`\@xxDprogram` 386 `\begingroup`

```
387 \catcode \|=0 \catcode \|=1 \catcode \|=2
```

```
388 \catcode \|=12 \catcode \|=12 \catcode \|=12
```

```
389 |gdef \@xDprogram#1\end{Dprogram}[|@gobble#1|end{Dprogram}]
```

```
390 |gdef \@xxDprogram#1\end{Dprogram*}[|@gobble#1|end{Dprogram*}]
```

```
391 |endgroup
```

`\uncatcodespecials`

```
392 \def\uncatcodespecials{\def\do##1{\catcode'##1=12 }\dospecials}
393 %
394 % \def\endDprogram{\endtrivlist}
395 % \@namedef{endDprogram*}{\endtrivlist}
396 %
```

## 8 D6select.sty

### 8.1 概要

`D6select.sty` `Dselect.sty` は、ファイルの一部を選択して出力する機能を設定する。日本語版と英語版を同じファイルに入れておき、選択して出力する場合などに便利である。

### 8.2 マクロの説明

#### 8.2.1 Dnewselect

##### 1. 機能

選択出力コマンドを定義する。

##### 2. 使用方法

`\Dnewselect{select-name}`

##### 3. 引数

*select-name* 選択条件の名前

##### 4. 備考

(a) 例えば、`\Dnewselect{J}`とすると、

```
\DonJ
\DoffJ
\DselJ{text1}{text2}
```

の3つのコマンドが定義される。`\DonJ`の指定後は、`\DselJ{text1}{text2}`によって *text1* の内容が出力され、*text2* の内容は出力されない。また `\DoffJ` の指定後は *text2* の内容が出力され、*text1* の内容は出力されない。定義直後の規定値は `\DonJ` の指定後と同じ状態である。

(b) なお `D6select` スタイルにおいて `\Dnewselect{J}` をデフォルトで定義している。 ”j” の付くクラス<sup>7</sup>を使用している場合 `\DonJ` が、その他の場合 `\DoffJ` がデフォルトで採用される。

<sup>7</sup>正確には”西暦”マクロが定義されているクラス



### 8.3 D6select.sty コード

D6select.sty 本節では D6select.sty に含まれるマクロのコードを解説する。

\Dnewselect 引数 (#1) を名前に持つマクロを定義せよ (\Don#1, Doff#1, Dsel#1).

```
397 \newcommand{\Dnewselect}[1]{
```

\Don \Don#1 が指定された場合 \D@sel#1 を \iftrue とせよ.

```
398 \namedef{Don#1}{\namedef{D@sel#1}{\iftrue}}
```

\Doff \Doff#1 が指定された場合 \D@sel#1 を \iffalse とせよ.

```
399 \namedef{Doff#1}{\namedef{D@sel#1}{\iffalse}}
```

\Dsel 引数を2つとれ. \D@sel#1 が \iftrue である場合, 第1引数を表示せよ. \D@sel#1 が \iffalse である場合, 第2引数を表示せよ.

```
400 \global\long\expandafter\def\csname Dsel#1\endcsname##1##2{%
```

```
401 \nameuse{D@sel#1}##1\else##2\fi}
```

\D@sel デフォルト値として \D@sel#1 を \ifturue とせよ.

```
402 \namedef{D@sel#1}{\iftrue}
```

```
403 }
```

\DselectJ デフォルトで日本語/英語切替え選択出力用コマンドを定義する (\Dselect{J}). もし \西暦マクロが定義されている場合 \DonJ をデフォルト値とし, 定義されていない場合 \DoffJ をデフォルト値とする. p<sub>A</sub>T<sub>E</sub>X<sub>2</sub>e の日本語環境における見出しコマンドが \DonJ, \DoffJ によって変更されるよう変更.

```
404 \Dnewselect{J}
```

```
405 \@ifundefined{西暦}{\DoffJ}{\DonJ}
```

```
406 \def\abstractname{\DselJ{要旨}{Abstract}}
```

## 9 D6graphicx.sty

### 9.1 概要

D6graphicx.sty は, L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X<sub>2</sub>e の標準拡張パッケージ graphicx パッケージを使用し, 図版の取り込みを可能とする. 提供する機能は旧版の Depsf.sty と Depspic.sty に含まれるものと同様あるいは機能拡張されている.

#### 9.1.1 D6graphicx

##### 1. 使用方法

```
\usepackage{D6graphicx} \usepackage[device_driver]{D6graphicx}
```

##### 2. 引数

*device\_driver* 利用するデバイスドライバ名

##### 3. 備考

- (a) 利用するデバイスドライバのデフォルトは *dvips* である. このほかに利用できるデバイスドライバのグラフィック機能の一覧は参考文献 [4] を参照のこと.
- (b) `\usepackage{Dennou6}` を指定すると内部で `D6graphicx` が呼び込まれる. `Dennou6` スタイルファイルを使用する場合でデバイスドライバを指定するには `\usepackage[device_driver]` とすれば良い.

## 9.2 マクロの説明

### 9.2.1 Depssetkeys

#### 1. 機能

PostScript ファイルを取り込むマクロに共通のグローバルなデフォルト値を設定する

#### 2. 使用方法

```
\Depssetkeys[key_val_list]
```

#### 3. 引数

*key\_val\_list* *graphicx* パッケージで使用できるキーを列挙.

#### 4. 備考

- (a) なし.

### 9.2.2 Depsfdrafttrue

#### 1. 機能

取り込んだ PostScript ファイルが出力されないようにする.

#### 2. 使用方法

```
\Depsfdrafttrue
```

#### 3. 引数

なし.

#### 4. 備考

- (a) このコマンドは, PostScript をサポートしないプリンタ等で出力する場合を念頭においている. PostScript ファイルの内容の代わりにそのファイル名が出力される.

### 9.2.3 Depsf

#### 1. 機能

PostScript ファイルを取り込む.

#### 2. 使用方法

```

\Depsf{file}
\Depsf [width]{file}
\Depsf [] [height]{file}
\Depsf [width] [height]{ file}
\Depsf [width] [height] [key_val_list]{ file}

```

### 3. 引数

|                     |                                   |
|---------------------|-----------------------------------|
| <i>width</i>        | 取り込む幅                             |
| <i>height</i>       | 取り込む高さ                            |
| <i>key_val_list</i> | <i>graphicx</i> パッケージで使用できるキーを列挙. |
| <i>file</i>         | 取り込むファイル名                         |

### 4. 備考

- 幅または高さを指定した場合はそれにおさまるようにスケーリングされる.
- `postscript.sty` を用いる場合は, それが `Depsf.sty` の前に読み込まれるように, `documentstyle` の `[ ]` の中で `postscript` を左に書く.
- `epsf.sty` を使う場合は, 自動的に読み込まれるので指定する必要はない.
- PostScript ファイルには `%%BoundingBox:` コメントが入っている必要がある. このコメントがないとき, あるいは, ファイルが見つからないときにはエラーとなる.
- `[width]`, `[height]` にあたえる値は `2cm` や `40pt` のように単位を指定しなくてはならない.
- `[key_val_list]` 内に (自由な単位で) 幅, 高さを指定できるが, `[width]`, `[height]` に値を入れてはならない.
- `[key_val_list]` 内で回転等の操作を指定した場合に正しくプリントアウトするにはデバイスドライバとして `dvips` といったグラフィック機能をフルサポートしたものを使用しなくてはならない.

#### 9.2.4 Depspic 環境

PostScript ファイルを取り込み, さらに取り込んだ図の任意の位置に  $\LaTeX$  の出力を挿入するためのコマンドを提供する.

##### 1. 機能

PostScript ファイルを取り込み, `picture` 環境に入る.

##### 2. 使用方法

```

\begin{Depspic}(width,height){file}
\begin{Depspic}(width,height)(xorg,yorg){file}
\end{Depspic}

```

##### 3. 引数

*width* 取り込む幅 (単位は 1/72 インチ)  
*height* 取り込む高さ (単位は 1/72 インチ)  
*xorg* 基準点の x 座標値 (単位は 1/72 インチ), 省略値は 0.  
*yorg* 基準点の y 座標値 (単位はポイント), 省略値は 0

#### 4. 備考

- (a) 幅, 高さ, 原点座標の単位は 1/72 インチであり, 1pt と僅かに異なる.
- (b) 図のスケーリングに使われるのは高さのみである.
- (c) 基準点座標指定が (0,0) または省略した場合には, `Dllcorner.ps` または `Dulcorner.ps` が読み込まれ, それぞれ左下, 左上の端のマークを出力する. 前者は通常の紙を縦長に使う設定 (ポートレート), 後者は横長 (ランドスケープ, `landscape.sty` を読み込んだ状態) の場合である. これらの .ps ファイルは然るべきディレクトリに入れられ, そのパス名が `Depspic.sty` 内に指定されている必要がある.
- (d) ポートレートでは, 基準点座標指定は, 紙の左下を (0,0) として右に x, 上に y としたときの画面の左下の端 (マークが出る位置) の座標値とするとよい. ランドスケープでは, 紙の左上を (0,0) として下に x, 右に y としたときの画面の左上 (マークが出る位置) の座標値とするとよい.
- (e) PostScript ファイルには `%%BoundingBox:` コメントが入っている必要がある. このコメントがないとき, あるいは, ファイルが見つからないときには出力時にエラーとなる.

### Deput, Deputc, Deputl, Deputr

#### 1. 機能

`Depspic` 環境内で指定した座標値の場所に引数のテキスト等を出力する.

#### 2. 使用方法

```
\Deput(x,y){body}
\Deputc(x,y){body}
\Deputl(x,y){body}
\Deputr(x,y){body}
\Deput(x,y)[angle]{body}
```

#### 3. 引数

*x* x 座標 (単位は 1/72 インチ)  
*y* y 座標 (単位は 1/72 インチ)  
*body* 出力するテキスト等  
*angle* *body* の回転角度 (反時計回りに *angle* 度)

#### 4. 備考

- (a) `\Deputc` は指定した点がテキストの中心に一致するように, `\Deputl` は指定した点がテキストの左端に一致するように, `\Deputr` は指定した点がテキストの右端に一致するように位置揃えをする. `\Deput` は位置揃えをしない.

- (b) ポートレートでは右が x, 上が y, ランドスケープでは下が x, 右が y である. ランドスケープでは通常の `picture` 環境と違うので注意.
- (c) 回転の指定は `\Deputc`, `\Deputl`, `\Deputr` でも使用できる.

これらのコマンドの仕様は, `Ghostview` を使ってプレビューしながら作業をするのに都合が良い様になっている. `Ghostview` を使った手順は次の通りである.

1. 基準点座標を省略 (または (0,0) と) して, `Depspic` 環境を指定して  $\text{\LaTeX}$  を実行する.
2. `Ghostview` で基準点の印の端 (L 印の左下, または「印の左上) の座標値読みとる. 画面の上部の数字がそれである.
3. 読み取った基準点の座標値を `Depspic` 環境の指定に入れる.
4. `Ghostview` の画面から, テキストを挿入したい場所の座標位置を読み取る.
5. その座標値を用いて, `\Deputc` コマンド等でテキストを指定する.
6. 再び  $\text{\LaTeX}$  処理を実行し, `Ghostview` で確認する.

### 9.3 Depsx, Depsy, Depsxhalf, Depsyhalf

#### 1. 機能

挿入できる最大の大きさを表す変数

#### 2. 使用方法

```
\begin{Depspic}(\Depsx, \Depsy){file}
\begin{Depspic}(\Depsx, \Depsyhalf){file}
\begin{Depspic}(\Depsxhalf, \Depsy){file}
```

#### 3. 備考

- (a) 入れる図が横長で,  $\text{\TeX}$  の画面がポートレートの場合, `\Depsyhalf` 指定を使うとよい. また, 入れる図が縦長で,  $\text{\TeX}$  の画面がランドスケープの場合, `\Depsxhalf` 指定を使うとよい.
- (b) OHP 用など, 図をめいっぱい大きくしたいときは, `Dfulpage.sty` を読み込むように指定する. ただし, `documentstyle` の [ ] の中で, `Dfulpage` の指定は `a4j` などよりも後ろで `Depspic.sty` よりも前でなければならない.

### 9.4 D6graphicx.sty コード

```
407 %\usepackage{graphicx}
408
409 \ifx\CurrentOption\@empty \def\CurrentOption{dvips}\fi
410 \DeclareOption*{\PassOptionsToPackage{\CurrentOption}{graphicx}}
411 \ProcessOptions\relax
412 \RequirePackage{graphicx}
413
414 %\def\Depconfig{\@ifnextchar[{\@Depconfig}{\@Depconfig[dvips]}}
```

```

415 %\def\@Depsconfig[#1]{\usepackage[#1]{graphicx}}
416
417 \newcommand{\Depssetkeys}[1]{\setkeys{Gin}{#1}}
 ドラフトにするさい指定する
418 \newcommand{\Depsfdrafttrue}{\setkeys{Gin}{draft}}
419
420 \def\Depsf{\@ifnextchar[{\D@epsf}{\D@epsf []}}
421 \def\D@epsf[#1]{\@ifnextchar[{\D@@epsf[#1]}{\D@@epsf[#1] []}}
422 \gdef\D@@epsf[#1][#2]{\@ifnextchar[{\D@@@epsf[#1][#2]}{\D@@@epsf[#1][#2] []}}
423 \gdef\D@@@epsf[#1][#2][#3]#4{
424 \def\Depsf@width@val{#1}
425 \def\Depsf@height@val{#2}
426 \ifx\Depsf@width@val\@empty \def\D@width{\@empty}
427 \else \def\D@width{width=#1,}\fi
428 \ifx\Depsf@height@val\@empty \def\D@height{\@empty}
429 \else \def\D@height{height=#2,}\fi
430 \edef\D@key_val_list{[#3,\D@width \D@height clip]}
431 \expandafter\includegraphics\D@key_val_list{#4}
432 }
433
434 \def\Depspic(#1,#2){\@ifnextchar[{\@Depspic(#1,#2)}{\@Depspic(#1,#2)(0,0)}}
435 \def\endDepspic{\end{picture}}
436 \def\@Depspic(#1,#2)(#3,#4){\@ifnextchar[%
437 {\@@Depspic(#1,#2)(#3,#4)}
438 {\@@Depspic(#1,#2)(#3,#4) []}
439 }
440
441 \def\@@Depspic(#1,#2)(#3,#4)[#5]#6{
442 \def\Depspic@width@val{#1}
443 \def\Depspic@height@val{#2}
444 \ifx\Depspic@width@val\@empty \def\D@width{\@empty}
445 \else \def\D@width{width=#1pt,}\fi
446 \ifx\Depspic@height@val\@empty \def\D@height{\@empty}
447 \else \def\D@height{height=#2pt,}\fi
448 \edef\D@key_val_list{[#5,\D@width \D@height clip]}
449 \begin{picture}(#1,#2)(#3,#4)
450 %\put(0,0){\includegraphics[#5,height=#2pt,width=#1pt,clip]{#6}}
451 \put(0,0){\expandafter\includegraphics\D@key_val_list{#6}}
452 }
453
454 %\def\Deput(#1,#2)#3{
455 % \put(#1,#2){#3}}
456 %\def\Deputc(#1,#2)#3{%
457 % \put(#1,#2){\makebox(0,0){#3}}}
458 %\def\Deputl(#1,#2)#3{%
459 % \put(#1,#2){\makebox(0,0)[l]{#3}}}
460 %\def\Deputr(#1,#2)#3{%
461 % \put(#1,#2){\makebox(0,0)[r]{#3}}}
462 \def\Deput(#1,#2){\@ifnextchar[{\D@eput(#1,#2)}{\D@eput(#1,#2)[0]}}
463 \def\D@eput(#1,#2)[#3]#4{\put(#1,#2){\rotatebox{#3}{#4}}}
464 %\gdef\D@eput(#1,#2)[#3]{\@ifnextchar[
465 % {\def\D@rot{#3}
466 % \ifx\D@rot\@empty
467 % \D@eputi(#1,#2)[0] \else \D@eputi(#1,#2)[#3]\fi}
468 % {\D@eputi(#1,#2)[#3][1]}}
469 %\gdef\D@eputi(#1,#2)[#3][#4]#5{\put(#1,#2){\rotatebox{#3}{#5}}}
470
471 \def\Deputc(#1,#2){\@ifnextchar[{\D@eput(#1,#2)}{\D@eput(#1,#2)[0]}}

```

```

472 \def\D@eputc(#1,#2)[#3]#4{\put(#1,#2){\rotatebox{#3}{\makebox(0,0){#4}}}}
473
474 \def\Deputl(#1,#2){\@ifnextchar[{\D@eput(#1,#2)}{\D@eput(#1,#2)[0]}}
475 \def\D@eputl(#1,#2)[#3]#4{\put(#1,#2){\rotatebox{#3}{\makebox(0,0)[l]{#4}}}}
476
477 \def\Deputr(#1,#2){\@ifnextchar[{\D@eput(#1,#2)}{\D@eput(#1,#2)[0]}}
478 \def\D@eputr(#1,#2)[#3]#4{\put(#1,#2){\rotatebox{#3}{\makebox(0,0)[r]{#4}}}}
479

```

## 10 Dcomment.sty

### 10.1 概要

Dcomment.sty は、ファイルの一部をコメントとして扱うコマンドを定義する。

Dcomment

### 10.2 Dcomment 環境

#### 1. 機能

環境の中のテキストは全てコメントとして扱う

#### 2. 使用方法

```
\begin{Dcomment} ... \end{Dcomment}
```

#### 3. 引数

なし

#### 4. 備考

(a) ネスティングはできない。

(b) Dcomment.sty のかわりに DNcomment.sty を読み込むとコメント指定が無視される。

```

480 \begingroup \catcode \|=0 \catcode \|=1
481 \catcode \|=2 \catcode \|=12 \catcode \|=12 \catcode \|=12
482 |long|gdef\D@xcomment#1\end{Dcomment}[|end[Dcomment]]
483 |endgroup
484 \def\D@comment{\begingroup \let\do\@makeother \dospecials}
485 \def\Dcomment{\D@comment \D@xcomment}
486 \def\endDcomment{\endgroup}

```

## 謝辞

Dennou Style ver. 6 は Dennou Style ver. 5 を基に作成しました。多くのコードは ver. 5 に修正を加えたものであり、ver. 5 を作成に携わった、沼口敦さん、竹広真一さん、石渡正樹さん、余田成男さん、林祥介さんをはじめとする方々に敬意を表します。

Dennou Style ver. 6 に含まれてしまったバグの多くは山田学の未熟さからくるものである。以後の開発に役立てるために修正すべき点の連絡は歓迎します。

## Copyright

Copyright (C) 2001 Dennou Style ver.6 プロジェクト. All rights reserved.

\* Dennou Style Ver.6 は BSD ライセンスでの配布をおこないます. 以下は英語の著作権表示を訳した文章であり, 正式な著作権は, 英語の原本に従うものとします.

変更の有無にかかわらず, ソースおよびバイナリ形式の再配布および利用は, 以下の条件を満たしていれば, これを許可する.

- ソース・コードの再配布は, 上記の著作権表示, この条件項目, および, 以下の免責事項を保存しなければならない.
- バイナリ形式の再配布は, 上記の著作権表示, この条件項目, および, 以下の免責事項を, その配布に付随する説明書, あるいはその他の資料のいずれかに明記しなければならない.
- 前もって特別に許諾を得ない限り, このソフトウェアから派生した製品の推奨や販売促進のために, このプロジェクト名と貢献者達の名前を利用してはならない.

このソフトウェアは「このままの形で」提供され, 明示的あるいは言外の保証は, 商用利用および特定目的への適合に対する言外の保証も含み, またこれらだけに限らず, 存在しない. たとえ以下のような損害の可能性を示唆されていたとしても, どのような形にしるこのソフトウェアの利用から発生した問題において, このプロジェクトと貢献者達は, (代替製品やサービスの調達; 利用権, データ, あるいは利益の損失; あるいは営業の中断を含む, またこれらだけに限らず) 直接的に, 間接的に, 偶然に, 特別に, 懲罰上, あるいは, 必然的に生じてしまった損害に対し責任はなく, いかなる責任理論上でも契約の有無に係わらず厳密な責任はなく, また (過失あるいはその他を含む) 不法行為に対しても責任はない.

## 参考文献

- [1] Dennou style ver. 5. (<http://www.gfd-dennou.org>).
- [2] Donald E. Knuth 著, 斎藤信男 監修, 鷺谷好輝 訳, 『改訂新版 T<sub>E</sub>X ブック』, アスキー出版局.
- [3] M. Goosens, F Mittelbach, A. Samarin 共著, アスキー書籍編集部監訳, 『The L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X コンパニオン』, アスキー出版局.
- [4] M. Goosens, S. Rahtz, F. Mittelbach 共著, 鷺谷好輝 訳, 『L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X グラフィックスコンパニオン』, アスキー出版局.
- [5] 奥村晴彦, 『L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X2e 美文書作成入門』, 技術評論社.
- [6] 藤田眞作, 『L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X2e 階梯』, アジソンウェスレイ.
- [7] 『L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 自由自在』, 磯崎秀樹, サイエンス社.



## Index

Numbers written in italic refer to the page where the corresponding entry is described; numbers underlined refer to the code line of the definition; numbers in roman refer to the code lines where the entry is used.

| Symbols                                   |                 |                                             |                                   |
|-------------------------------------------|-----------------|---------------------------------------------|-----------------------------------|
| <code>\!</code> .....                     | 312, 314, 340   | <code>\@D@epspic</code> ..                  | 437, 438, 441                     |
| <code>\,</code> .....                     | 344             | <code>\@D@author</code> .....               | 193, 196                          |
| <code>\@D@epspic</code> ..                | 437, 438, 441   | <code>\@D@date</code> .....                 | 194, 197                          |
| <code>\@D@author</code> .....             | 193, 196        | <code>\@D@depsconfig</code> .....           | 414, 415                          |
| <code>\@D@date</code> .....               | 194, 197        | <code>\@D@epspic</code> .....               | 434, 436                          |
| <code>\@D@depsconfig</code> .....         | 414, 415        | <code>\@D@dffoot</code> .....               | 39, 86, 92                        |
| <code>\@D@epspic</code> .....             | 434, 436        | <code>\@D@dfhead</code> .....               | 33, 84, 90                        |
| <code>\@D@dffoot</code> .....             | 39, 86, 92      | <code>\@D@dttitle</code> .....              | 192, 195                          |
| <code>\@D@dfhead</code> .....             | 33, 84, 90      | <code>\@afterheading</code> ...             | 155, 162                          |
| <code>\@D@dttitle</code> .....            | 192, 195        | <code>\@afterindenttrue</code> .....        | 121                               |
| <code>\@afterheading</code> ...           | 155, 162        | <code>\@author</code> .....                 | 196                               |
| <code>\@afterindenttrue</code> .....      | 121             | <code>\@chapapp</code> .....                | 69,                               |
| <code>\@author</code> .....               | 196             | 76, 127, 226, 227, 265                      |                                   |
| <code>\@chapapp</code> .....              | 69,             | <code>\@date</code> .....                   | 197                               |
| 76, 127, 226, 227, 265                    |                 | <code>\@dblarg</code> .....                 | 122, 192–194                      |
| <code>\@date</code> .....                 | 197             | <code>\@empty</code> 87, 89, 93, 95, 409,   |                                   |
| <code>\@dblarg</code> .....               | 122, 192–194    | 426, 428, 444, 446, 466                     |                                   |
| <code>\@empty</code> 87, 89, 93, 95, 409, |                 | <code>\@evenfoot</code> .....               | 92, 103                           |
| 426, 428, 444, 446, 466                   |                 | <code>\@evenhead</code> .....               | 90, 103                           |
| <code>\@evenfoot</code> .....             | 92, 103         | <code>\@gobbletwo</code> ....               | 80, 82, 101                       |
| <code>\@evenhead</code> .....             | 90, 103         | <code>\@height</code> .....                 | 47, 52                            |
| <code>\@gobbletwo</code> ....             | 80, 82, 101     | <code>\@ifnextchar</code> ..                | 280, 312,                         |
| <code>\@height</code> .....               | 47, 52          | 314, 315, 330, 414,                         |                                   |
| <code>\@ifnextchar</code> ..              | 280, 312,       | 420–422, 434, 436,                          |                                   |
| 314, 315, 330, 414,                       |                 | 462, 464, 471, 474, 477                     |                                   |
| 420–422, 434, 436,                        |                 | <code>\@ifstar</code> .....                 | 122, 364                          |
| 462, 464, 471, 474, 477                   |                 | <code>\@ifundefined</code> .....            |                                   |
| <code>\@ifstar</code> .....               | 122, 364        | .. 24, 59, 140, 203,                        |                                   |
| <code>\@ifundefined</code> .....          |                 | 225, 231, 246, 247, 405                     |                                   |
| .. 24, 59, 140, 203,                      |                 | <code>\@makechapterhead</code>              | 152, 153                          |
| 225, 231, 246, 247, 405                   |                 | <code>\@makeoother</code> .....             | 484                               |
| <code>\@makechapterhead</code>            | 152, 153        | <code>\@makeschapterhead</code>             | 160, 161                          |
| <code>\@makeoother</code> .....           | 484             | <code>\@mkboth</code> . 54, 56, 80, 82,     |                                   |
| <code>\@makeschapterhead</code>           | 160, 161        | 101, 114, 133, 232, 233                     |                                   |
| <code>\@mkboth</code> . 54, 56, 80, 82,   |                 | <code>\@namedef</code> 368, 398, 399, 402   |                                   |
| 101, 114, 133, 232, 233                   |                 | <code>\@nameuse</code> .....                | 401                               |
| <code>\@namedef</code> 368, 398, 399, 402 |                 | <code>\@ne</code> .....                     | 61, 63, 71                        |
| <code>\@nameuse</code> .....              | 401             | <code>\@oddfoot</code> .....                | 86, 102                           |
| <code>\@ne</code> .....                   | 61, 63, 71      | <code>\@oddhead</code> ....                 | 84, 102, 103                      |
| <code>\@oddfoot</code> .....              | 86, 102         | <code>\@startsection</code>                 | 107, 109, 111                     |
| <code>\@oddhead</code> ....               | 84, 102, 103    | <code>\@starttoc</code> .....               | 294, 298                          |
| <code>\@startsection</code>               | 107, 109, 111   | <code>\@tempdima</code> ..                  | 174, 176, 178                     |
| <code>\@starttoc</code> .....             | 294, 298        | <code>\@title</code> .....                  | 195                               |
| <code>\@tempdima</code> ..                | 174, 176, 178   | <code>\@topnewpage</code> .....             | 152, 160                          |
| <code>\@title</code> .....                | 195             | <code>\@topnum</code> .....                 | 120                               |
| <code>\@topnewpage</code> .....           | 152, 160        | <code>\@vobeyspaces</code> ....             | 365, 367                          |
| <code>\@topnum</code> .....               | 120             | <code>\@width</code> .....                  | 47, 52                            |
| <code>\@vobeyspaces</code> ....           | 365, 367        | <code>\@xDprogram</code> .....              | 367, <u>386</u>                   |
| <code>\@width</code> .....                | 47, 52          | <code>\@xxDprogram</code> .....             | 368, <u>386</u>                   |
| <code>\@xDprogram</code> .....            | 367, <u>386</u> |                                             |                                   |
| <code>\@xxDprogram</code> .....           | 368, <u>386</u> |                                             |                                   |
|                                           |                 | <code>\@</code> .....                       | 388, 481                          |
|                                           |                 | <code>\{</code> .....                       | 388, 481                          |
|                                           |                 | <code>\}</code> .....                       | 388, 481                          |
|                                           |                 | <code>\_</code> .....                       | 102, 239                          |
|                                           |                 |                                             |                                   |
|                                           |                 | <b>A</b>                                    |                                   |
|                                           |                 | <code>\abstractname</code> .....            | 406                               |
|                                           |                 | <code>\addcontentsline</code> .....         | 115, 146, 148, 159                |
|                                           |                 | <code>\addtocontents</code> ...             | 149, 150                          |
|                                           |                 | <code>\addtolength</code> .....             | 176, 214, 216, 217, 286           |
|                                           |                 | <code>\addvspace</code> .....               | 149, 150                          |
|                                           |                 | <code>\advance</code> .....                 | 238                               |
|                                           |                 | <code>\Alph</code> .....                    | 266                               |
|                                           |                 |                                             |                                   |
|                                           |                 | <b>B</b>                                    |                                   |
|                                           |                 | <code>\baselineskip</code> .....            | 371                               |
|                                           |                 | <code>\begin</code> .....                   | 449                               |
|                                           |                 | <code>\begingroup</code> .....              | 268,                              |
|                                           |                 | 365, 366, 386, 480, 484                     |                                   |
|                                           |                 | <code>\bf</code> .. 84, 85, 90, 91, 108,    |                                   |
|                                           |                 | 110, 112, 188–190, 277                      |                                   |
|                                           |                 | <code>\bfseries</code> .....                | 172                               |
|                                           |                 | <code>\bigskip</code> .....                 | 370                               |
|                                           |                 | <code>\boldmath</code> .....                | 323–326                           |
|                                           |                 | <code>\botmark</code> .....                 | 65, 78, 224                       |
|                                           |                 | <code>\bottomfraction</code> .....          | <u>354</u>                        |
|                                           |                 | <code>\bottomnumber</code> .....            | <u>350</u>                        |
|                                           |                 | <code>\bullet</code> .....                  | 272                               |
|                                           |                 |                                             |                                   |
|                                           |                 | <b>C</b>                                    |                                   |
|                                           |                 | <code>\c@secnumdepth</code> .               | 61, 63,                           |
|                                           |                 | 68, 71, 75, 125, 145, 173                   |                                   |
|                                           |                 | <code>\catcode</code> .....                 |                                   |
|                                           |                 | 387, 388, 392, 480, 481                     |                                   |
|                                           |                 | <code>\cdot</code> .....                    | 334                               |
|                                           |                 | <code>\chapter</code> .....                 | 114, 233                          |
|                                           |                 | <code>\chaptermark</code>                   | 67, 74, 97, 129                   |
|                                           |                 | <code>\clearpage</code> .....               | 120                               |
|                                           |                 | <code>\csname</code> .....                  | 400                               |
|                                           |                 | <code>\CurrentOption</code>                 | 12, 409, 410                      |
|                                           |                 | <code>\Cvs</code> .....                     | 169, 179                          |
|                                           |                 |                                             |                                   |
|                                           |                 | <b>D</b>                                    |                                   |
|                                           |                 | <code>\D2float.sty</code> .....             | <i>24</i>                         |
|                                           |                 | <code>\D6comment.sty</code> .....           | <i>1</i>                          |
|                                           |                 | <code>\D6float.sty</code> .....             | <i>1</i>                          |
|                                           |                 | <code>\D6fulpage.sty</code> .....           | <i>1</i>                          |
|                                           |                 | <code>\D6graphicx.sty</code> .....          | <i>1</i>                          |
|                                           |                 | <code>\D6math.sty</code> .....              | <i>1, 19</i>                      |
|                                           |                 | <code>\D6misc.sty</code> .....              | <i>1, 218</i>                     |
|                                           |                 | <code>\D6prog.sty</code> .....              | <i>1, 25, 359</i>                 |
|                                           |                 | <code>\D6select.sty</code> ...              | <i>1, 29, 397</i>                 |
|                                           |                 | <code>\D6style.sty</code> .....             | <i>1</i>                          |
|                                           |                 | <code>\D6version.sty</code> ....            | <i>17, 300</i>                    |
|                                           |                 | <code>\D@@@epsf</code> .....                | 422, 423                          |
|                                           |                 | <code>\D@@epsf</code> .....                 | 421, 422                          |
|                                           |                 | <code>\D@@proginput</code>                  | 364, 366, <u>366</u>              |
|                                           |                 | <code>\D@author</code> ..                   | 89, 93, 196, 202                  |
|                                           |                 | <code>\D@avect</code> ....                  | 328, 329, <u>329</u>              |
|                                           |                 | <code>\D@bvect</code> ....                  | 320, 321, <u>321</u>              |
|                                           |                 | <code>\D@cdiv</code> .....                  | 336, 338                          |
|                                           |                 | <code>\D@cgrad</code> .....                 | 336, 337                          |
|                                           |                 | <code>\D@chapapp</code> .....               | 165, 175                          |
|                                           |                 | <code>\D@chapnumfalse</code> .....          | 133                               |
|                                           |                 | <code>\D@chapnumtrue</code> .....           | 129                               |
|                                           |                 | <code>\D@chappos</code> .....               | 166, 175                          |
|                                           |                 | <code>\D@chapterltitle</code> .             | 130,                              |
|                                           |                 | 134, 137, 147, 148, 159                     |                                   |
|                                           |                 | <code>\D@chaptertitle</code>                | 130, 134,                         |
|                                           |                 | 136, 152–154, 160, 161                      |                                   |
|                                           |                 | <code>\D@comment</code> .....               | 484, 485                          |
|                                           |                 | <code>\D@crot</code> .....                  | 336, 339                          |
|                                           |                 | <code>\D@D</code> .....                     | 312, <u>313</u>                   |
|                                           |                 | <code>\D@date</code> ....                   | 88, 92, 197, 204                  |
|                                           |                 | <code>\D@epsf</code> .....                  | 420, 421                          |
|                                           |                 | <code>\D@eput</code> 462–464, 471, 474, 477 |                                   |
|                                           |                 | <code>\D@eputc</code> .....                 | 472                               |
|                                           |                 | <code>\D@eputi</code> .....                 | 467–469                           |
|                                           |                 | <code>\D@eputl</code> .....                 | 475                               |
|                                           |                 | <code>\D@eputr</code> .....                 | 478                               |
|                                           |                 | <code>\D@file</code>                        | 86, 94, 183, 199, 206             |
|                                           |                 | <code>\D@finp</code> .....                  | 87,                               |
|                                           |                 | 95, 183, 184, 200, 207                      |                                   |
|                                           |                 | <code>\D@hchapter</code> .....              | 122, 124                          |
|                                           |                 | <code>\D@hchapterhead</code> ..             | 142, 144                          |
|                                           |                 | <code>\D@height</code>                      | 428–430, 446–448                  |
|                                           |                 | <code>\D@key</code> ...                     | 430, 431, 448, 451                |
|                                           |                 | <code>\D@lapla</code> ....                  | 330, 331, <u>331</u>              |
|                                           |                 | <code>\D@list</code> .....                  | 280–282                           |
|                                           |                 | <code>\D@makechapterhead</code>             | 154, 168                          |
|                                           |                 | <code>\D@ndiv</code> ..                     | 332, <u>332</u> , 334, <u>336</u> |
|                                           |                 | <code>\D@ngrad</code> .                     | 332, <u>332</u> , 333, <u>336</u> |
|                                           |                 | <code>\D@nrot</code> ..                     | 332, <u>332</u> , 335, <u>336</u> |
|                                           |                 | <code>\D@P</code> .....                     | 314, <u>315</u>                   |
|                                           |                 | <code>\D@parindent</code> ....              | 218–220                           |
|                                           |                 | <code>\D@path</code> ....                   | 86, 94, 198, 205                  |
|                                           |                 | <code>\D@PD</code> .....                    | 315, <u>316</u> , <u>317</u>      |
|                                           |                 | <code>\D@Pi</code> .....                    | 315, <u>317</u>                   |
|                                           |                 | <code>\D@proginput</code> ....              | 364, <u>365</u>                   |
|                                           |                 | <code>\D@propline</code> ..                 | 378, 379, 383                     |

- `\D@proglinestart` . 372, 380  
`\D@progset` ... 365–368, 369  
`\D@refapp` ... 230, 232, 233  
`\D@rot` ..... 465, 466  
`\D@schapter` ..... 122, 132  
`\D@schapterhead` .. 142, 158  
`\D@sel` ..... 402  
`\D@space` . 312–314, 316, 318  
`\D@title` ... 84, 90, 195, 201  
`\D@width` ..... 426,  
427, 430, 444, 445, 448  
`\D@xcomment` ..... 485  
`\D@year` ..... 237–239  
`\Dappendix` ..... 262  
`\Darrowvect` ..... 328, 328  
`\Dauthor` ..... 193  
`\Dauthorsty` ..... 189, 196  
`\day` ..... 242, 243  
`\dblfloatpagefraction` . 358  
`\dbltopfraction` ..... 357  
`\dbltopnumber` ..... 352  
`\Dboldvect` 320, 320, 347, 347  
`\Dchaplal` ..... 252  
`\Dchapters` ..... 259, 260  
`\Dchapter` ..... 119  
`\Dchapterhead` ..... 139  
`\DchapterS` ..... 114  
`\Dchargrad` ..... 336, 336  
`\Dcomment` ..... 485  
`Dcomment (environment)` . 36  
`\DD` ..... 19, 312  
`\Dd` ..... 20, 344, 344  
`\Ddate` ..... 194  
`\Ddatesty` ..... 190, 197  
`\Ddint` ..... 20, 341, 341  
`\Ddiv` ..... 20, 332, 336  
`\Ddsty` ..... 21, 346, 346  
`\DeclareOption` .... 12, 410  
`\def` ..... 30, 31, 33,  
39, 47, 51, 54, 55,  
58, 60, 67, 70, 74,  
80, 81, 83, 84, 86,  
90, 92, 96, 97, 101–  
103, 107, 109, 111,  
114, 119, 124, 130,  
132, 134, 136, 137,  
139, 144, 158, 168,  
183, 184, 188–190,  
192–207, 220–224,  
226–231, 238, 244,  
247–252, 254–260,  
262, 265, 266, 268,  
269, 271, 273, 275,  
277–280, 282, 292,  
296, 308, 311–317,  
331, 367, 369, 375,  
378–380, 382, 392,  
394, 400, 406, 409,  
414, 415, 420, 421,  
424–429, 434–436,  
441–447, 454, 456,  
458, 460, 462, 463,  
465, 471, 472, 474,  
475, 477, 478, 484–486  
`\Dennou6.sty` ..... 1, 1  
`\Dentry` ..... 244  
`\Depsconfig` .... 21, 22, 414  
`\Depsf` ..... 420  
`\Depsf@height@val` 425, 428  
`\Depsf@width@val` . 424, 426  
`\Depsfdrafttrue` ..... 418  
`\Depspic` ..... 434  
`\Depspic@height@val` 443, 446  
`\Depspic@width@val` 442, 444  
`\Depssetkeys` ..... 417  
`\Deput` ..... 454, 462  
`\Deputc` ..... 456, 471  
`\Deputl` ..... 458, 474  
`\Deputr` ..... 460, 477  
`\Deqlab` ..... 248  
`\Deqref` ..... 254  
`\descriptionlabel` .... 235  
`\Dfiglab` ..... 249  
`\DFigref` ..... 256  
`\Dfigref` ..... 255  
`\Dfile` ..... 199  
`\Dfinp` ..... 200  
`\Dfoot` ..... 31  
`\Dfootfalse` ..... 30  
`\Dfootrule` ..... 40, 51  
`\Dfootrulewidth` .....  
..... 26, 51, 52, 212  
`\Dfoottrue` ..... 29, 31  
`\Dgrad` ..... 20, 332, 336  
`\Dheadrule` ..... 37, 47  
`\Dheadrulewidth` .....  
..... 25, 47, 48, 211  
`\Dheadwidth` .. 27, 34–37,  
40–43, 47, 52, 213, 214  
`\Dinclude` ..... 181, 183  
`\Dinput` ..... 181, 184  
`\Dintkern` 340, 340, 341, 342  
`\Dinv` ..... 20, 343, 343  
`\displaystyle` ..... 346  
`\Dlabel` ..... 246–252  
`\Dlapla` ..... 20, 330, 330  
`\Dlist` ..... 280  
`\Dlistlabel` ..... 277, 283  
`\Dlistlabelsep` ... 278, 286  
`\Dlisttemplate` ... 279, 281  
`\Dmoddate` .... 18, 308, 308  
`\DmoddateJ` ... 18, 311, 311  
`\Dmodday` . 303, 306, 310, 311  
`\Dmodify` ..... 17, 303, 303  
`\Dmodmonth` 303, 305, 309, 311  
`\Dmodityear` 303, 304, 308, 311  
`\Dnablalagr` 332, 332, 347, 348  
`\Dnewselect` 20, 397, 397, 404  
`\Dnitemize` ..... 271  
`\Dnofoot` ..... 30  
`\Dnoparindent` ..... 19, 218  
`\Dnoparskip` ..... 223  
`\do` ..... 392, 484  
`\Doff` ..... 399  
`\DoffJ` ..... 24, 405  
`\Don` ..... 398  
`\DonJ` ..... 24, 405  
`\dospecials` ..... 392, 484  
`\DP` ..... 19, 314  
`\Dparindent` ..... 218  
`\Dparskip` ..... 222  
`\Dpath` ..... 198  
`\Dprogininput` ... 26, 364, 364  
`\Dprogininput*` ..... 26, 364  
`\Dproglinbox` ..... 381  
`\Dprogline` ... 27, 361, 378  
`\Dproglinebox` .... 376, 382  
`\Dproglineoff` ..... 26, 379  
`\Dproglineon` .. 26, 378, 385  
`\Dproglinesep` .....  
..... 27, 363, 363, 384  
`\Dproglinestart` 26, 380, 385  
`\Dproglinewidth` 27, 362, 383  
`\Dprogram` ..... 367  
`Dprogram (environment)` . 26  
`\Dprogram*` ..... 368  
`Dprogram* (environment)` 26  
`\Dprogsiz` ... 27, 359, 371  
`\Dprogskip` ... 27, 360, 371  
`\Dreference` ..... 230  
`\Drot` ..... 20, 332, 336  
`\Dseclab` ..... 251  
`\Dsecref` ..... 258  
`\Dsel` ..... 400  
`\Dselect{J}` ..... 404  
`\DselJ` ..... 225–  
230, 255–260, 265,  
292–294, 296–298, 406  
`\Dsethead` ..... 224, 225  
`\Dsidenote` ..... 275  
`\Dsmallquote` ..... 268  
`\Dsqr` ..... 20, 345, 345  
`\Dtablab` ..... 250  
`\Dtabref` ..... 257  
`\Dtint` ..... 20, 341, 342  
`\Dtitle` ..... 192  
`\Dtitlesty` ..... 188, 195  
`\Dtoday` ..... 203, 204, 237  
`\Dvect` .... 20, 320, 320, 328  
`\Dver` ..... 17, 300, 300  
`\Dversion` .... 17, 300, 301
- E**
- `\edef` ..... 430, 448  
`\else` ..... 73, 87,  
89, 93, 95, 142, 148,

- 153, 154, 161, 401,  
427, 429, 445, 447, 467  
`\end` . . . . . 389, 390, 435, 482  
`\endcsname` . . . . . 400  
`\endDcomment` . . . . . 486  
`\endDepspic` . . . . . 435  
`\endDlist` . . . . . 287  
`\endDnitemize` . . . . . 273  
`\endDprogram` . . . . . 394  
`\endDreference` . . . . . 236  
`\endDsmallquote` . . . . . 269  
`\endgraf` . . . . . 370, 375  
`\endgroup` 269, 365, 366, 486  
`\endlist` . . . . . 236, 273, 287  
`\endquote` . . . . . 269  
`\endtrivlist` . . . . . 394, 395  
`\ensuremath` . . . . . 322  
environments:  
  `Dcomment` . . . . . 36  
  `Dprogram` . . . . . 26  
  `Dprogram*` . . . . . 26  
`\everypar` . . . . . 376  
`\expandafter` . 400, 431, 451
- F**  
`\fi` . . . . . 44, 62, 64, 69, 72,  
76, 77, 87, 89, 93, 95,  
128, 142, 148, 156,  
162, 179, 240, 242,  
309–311, 401, 409,  
427, 429, 445, 447, 467  
`\firstmark` . . . . . 65, 78, 224  
`\floatpagefraction` . . . . . 356  
`\fnum@figure` . . . . . 228  
`\fnum@table` . . . . . 229  
`\footnotesize` 86, 88, 92, 94  
`\frac` . . . . . 313, 316, 318, 343  
`\frenchspacing` . . . . . 373
- G**  
`\gdef` . 183, 184, 195–200,  
225, 422, 423, 464, 469  
`\global` . . . . . 120, 400
- H**  
`\hbox` . 34–37, 40–43, 168, 175  
`\headheight` . . . . . 216  
`\hfil` . . . . . 102, 277  
`\hfill` . . . . . 35, 36, 41, 42, 85  
`\hrule` . . . . . 47, 52  
`\hsize` . . . . . 178  
`\hskip` . . . . . 62, 64, 69,  
72, 76, 85, 90, 175, 384  
`\hss` . . . . . 85, 89, 90, 92  
`\Huge` . . . . . 188  
`\huge` . . . . . 172
- I**  
`\if@twocolumn` . . . . . 151, 160  
`\if@twoside` . . . . . 66  
`\ifD@chapnum` . . . . . 117, 142  
`\ifDfoot` . . . . . 29, 39  
`\iffalse` . . . . . 399  
`\ifnum` . . . . . 61, 63,  
68, 71, 75, 125, 145,  
173, 240, 242, 309–311  
`\iftrue` . . . . . 398, 402  
`\ifx` . . . . . 87, 89, 93, 95, 409,  
426, 428, 444, 446, 466  
`\include` . . . . . 183  
`\includegraphics` . . . . .  
. . . . . 431, 450, 451  
`\index` . . . . . 244  
`\input` . 15–17, 184, 365, 366  
`\int` . . . . . 341, 342  
`\it` . . . . . 361  
`\itemindent` . . . . . 234  
`\itemsep` . . . . . 272
- J**  
`\jobname` . . . . . 206
- L**  
`\l@figure` . . . . . 295, 299  
`\l@table` . . . . . 295, 299  
`\label` . . . . . 244, 246, 247  
`\labelwidth` . . . . . 234, 284, 285  
`\LARGE` . . . . . 190  
`\Large` . . . . . 108, 189  
`\large` . . . . . 110  
`\leavevmode` . . . . . 375  
`\left` . . . . . 317  
`\leftmargin` . . . . . 234, 285, 286  
`\leftmark` . . . . . 91  
`\let` . . . . . 54–56, 65, 78,  
80–82, 101, 103, 224,  
235, 236, 246, 283,  
287, 295, 299, 320,  
328, 332, 336, 378, 484  
`\linewidth` . . . . . 174  
`\list` . . . . . 234, 272, 283  
`\listoffigures` . . . . . 289, 292  
`\listoftables` . . . . . 289, 296  
`\llap` . . . . . 37, 43  
`\long` . . . . . 400
- M**  
`\m@ne` . . . . . 68, 75, 125, 145, 173  
`\makebox` . . . . . 35–  
37, 41–43, 383, 457,  
459, 461, 472, 475, 478  
`\makelabel` . . . . . 235, 283  
`\marginpar` . . . . . 275  
`\markboth` . . . . .  
. . . . . 54, 56, 61, 68, 292, 296  
`\markright` . . . . . 71, 75  
`\mathchoice` . . . . . 322, 340  
`\mathrm` . . . . . 337–339  
`\mathstrut` . . . . . 345  
`\mbox` . . . . . 277, 323–326,  
329, 333–335, 337–339  
`\month` . . . . . 240, 241
- N**  
`\nabla` . . . . . 331, 333–335  
`\NeedsTeXFormat` . . . . . 1  
`\newcommand` . . . . . 165, 166,  
300, 301, 303–306,  
312, 314, 320, 321,  
328–330, 332–346,  
359–366, 397, 417, 418  
`\newcount` . . . . . 237  
`\newcounter` . . . . . 381  
`\newdimen` . . . . . 25–27  
`\newif` . . . . . 29, 117  
`\newlength` . . . . . 218  
`\nobreak` . . . . . 177, 239, 241  
`\noindent` . . . . . 370  
`\normalsize` . . . . . 112  
`\number` . . . . . 239, 241, 243  
`\numberline` . . . . . 147
- O**  
`\obeylines` . . . . . 373
- P**  
`\pagestyle` . . . . . 18, 99  
`\par` . . . . . 262, 370, 375  
`\parindent` . . . . . 170, 219–221  
`\parsep` . . . . . 272  
`\parskip` . . . . . 222, 223  
`\partial` . . . . . 316, 318  
`\PassOptionsToPackage` .  
. . . . . 12, 410  
`\postchaptername` . . . . . 166  
`\prechaptername` . . . . . 165  
`\ProcessOptions` . . . . . 13, 411  
`\protect` . . . . . 147, 149, 150  
`\ProvidesPackage` . . . . . 2  
`\ps@DAheadings` . . . . . 55  
`\ps@DAmyheadings` . . . . . 81  
`\ps@Dhead` . . . . . 54, 55, 58  
`\ps@Dheadings` . . . . . 54  
`\ps@Dmyhead` . . . . . 58, 80, 81, 83  
`\ps@Dmyheadings` . . . . . 80  
`\ps@Dtop` . . . . . 101  
`\ps@jpl@in` . . . . . 55, 81  
`\put` . . . . . 450, 451,  
455, 457, 459, 461,  
463, 469, 472, 475, 478
- Q**  
`\quote` . . . . . 268
- R**  
`\raggedright` . . . . . 171  
`\ref` . . . . . 254–260  
`\refstepcounter` . . . . . 126  
`\relax` 13, 84, 86, 91, 95, 411

|                                           |                    |                                       |                               |                                 |                                          |
|-------------------------------------------|--------------------|---------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------------------|
| <code>\renewcommand</code> . . . . .      | 353–358            | <code>\sqrt</code> . . . . .          | 345                           | <code>\typeout</code> . . . . . | 127, 141                                 |
| <code>\RequirePackage</code> . . . . .    | 412                | <code>\stepcounter</code> . . . . .   | 376                           |                                 |                                          |
| <code>\reset@font</code> . . . . .        | 172                | <code>\strut</code> . . . . .         | 35–37, 41–43                  | <b>U</b>                        |                                          |
| <code>\right</code> . . . . .             | 319                | <code>\subsection</code> . . . . .    | 109                           | <code>\uncatcodespecials</code> | 374, 392                                 |
| <code>\rightmark</code> . . . . .         | 85                 | <code>\subsubsection</code> . . . . . | 111                           | <code>\unhbox</code> . . . . .  | 177                                      |
| <code>\rlap</code> . . . . .              | 35, 41             |                                       |                               | <code>\usepackage</code>        | 4–10, 14, 407, 415                       |
| <code>\rm</code> . . . . .                | 102                | <b>T</b>                              |                               |                                 |                                          |
| <code>\rotatebox</code> . . . . .         |                    | <code>\textfraction</code> . . . . .  | <u>355</u>                    | <b>V</b>                        |                                          |
| 463, 469, 472, 475, 478                   |                    | <code>\textwidth</code> . . . . .     | 213                           | <code>\vbox</code> . . . . .    | 34, 40                                   |
|                                           |                    | <code>\thechapter</code> . . . . .    | 69,<br>76, 127, 147, 175, 266 | <code>\vec</code> . . . . .     | 329                                      |
| <b>S</b>                                  |                    | <code>\theD@proglino</code> . . . . . | 383                           | <code>\vskip</code> . . . . .   | 48,<br>51, 169, 179, 271, 273            |
| <code>\scriptscriptstyle</code> . . . . . | 326                | <code>\thefigure</code> . . . . .     | 228                           | <code>\vtop</code> . . . . .    | 178                                      |
| <code>\scriptsize</code> . . . . .        | 275, 361           | <code>\thepage</code> . . . . .       | 85, 90, 102                   |                                 |                                          |
| <code>\scriptstyle</code> . . . . .       | 325                | <code>\thesection</code> . . . . .    | 62, 64, 72                    | <b>W</b>                        |                                          |
| <code>\section</code> . . . . .           | 107, 232, 292, 296 | <code>\thetable</code> . . . . .      | 229                           | <code>\wd</code> . . . . .      | 176                                      |
| <code>\sectionmark</code> . . . . .       | 60, 70, 96         | <code>\thispagestyle</code> . . . . . | 120                           |                                 |                                          |
| <code>\setbox</code> . . . . .            | 175                | <code>\times</code> . . . . .         | 335                           | <b>Y</b>                        |                                          |
| <code>\setcounter</code> . . . . .        |                    | <code>\today</code> . . . . .         | 203                           | <code>\year</code> . . . . .    | 238                                      |
| 263, 264, 349–352, 372                    |                    | <code>\topfraction</code> . . . . .   | <u>353</u>                    |                                 |                                          |
| <code>\setkeys</code> . . . . .           | 417, 418           | <code>\topmargin</code> . . . . .     | 217                           | <b>Z</b>                        |                                          |
| <code>\setlength</code> . . . . .         |                    | <code>\topnumber</code> . . . . .     | <u>349</u>                    | <code>\z@</code> . . . . .      | 107, 109, 111,<br>120, 170, 175–177, 234 |
| 174, 211–213, 219–223                     |                    | <code>\totalnumber</code> . . . . .   | <u>351</u>                    |                                 |                                          |
| <code>\settowidth</code> . . . . .        | 284                | <code>\ttfamily</code> . . . . .      | 373                           |                                 |                                          |
| <code>\small</code> . . . . .             | 268, 359           |                                       |                               |                                 |                                          |